弥栄 スカウト 浜松

100号記念号

昭和60年 8 月 25日 発行

スカウト浜松100号の発行に寄せて

研修に裏付けられた奉仕

浜松地区協議会長

柳　本　冬　彦

「スカウト浜松」が100号になりました。まずもって指導者の皆様のご尽力に感謝申しあげます。ひきかえ、何もできないでいる自分の無力に腹が立ちます。真底口惜しく存じております。だから、皆様におすがり致したいのです。

指導者の皆様はボランティアであります。しかし、素人であってはなりません。スカウティングのプロフェッショナルであることを忘れないでほしいと思います。そのためには日々の研修が必要であります。プロ意識に動機づけられた研修への意欲、しかも研修は理屈ではなく体験学習でなくてはならないと思います。

奉仕の精神は尊いものであり、奉仕なきところにスカウト活動はあり得ないことは知っております。しかし、奉仕だけでスカウティングが成り立つ筈はありません。研修によって裏付けられた奉仕でなければならないのです。

スカウティングの理論・技術と奉仕の精神を、研修によってたたき込まれたプロ集団であるべきだと思います。巷間雑多の奉仕団体がありますが、彼等はプロ集団ではありません。素人の集まりです。従って、それ自体の教育を行うこともなければ、生命に直結した活動もしておりません。

子供達の生命を守り育てることを教育の基本とするスカウティングはスカウター達のプロ集団によってのみ可能であります。だから、生涯にわたる研修が必要となるのです。実習所があり研修所があるのもそのためであり、地区にも訓練チームがなくてはならないし、理論・技術研修の中心となるのがコミッショナーであると思います。

道はきびしいと存じます。きびしいからこそ燃えるのです。みずから選んだ道であります。この道にささげ尽くす覚悟が望まれます。

浜松地区委員長

内　田　時　世

三指

「スカウト浜松」100号発刊：おめでとうございます。昭和37年7月20日の創刊号は内田嘉一地区副協議会長（当時地区コミッショナー）の手によって発刊され、その後23年の年輪を重ねました。

創刊号は、時恰かも、アジアジャンボリーを次年度に迎えての年でした。刊行物は先人の努力と時代の流れを知る上に大変役立つものです。人間の記憶は72時間（三日間）毎に半減していくと言われています。その意味でも、語り伝えていく事は大切なことであり、「スカウト浜松」は貴重な浜松地区スカウト運動の歴史のスライドであり、“過去を知ることは、将来に責任を持つことになる”と言われている言葉通り、「スカウト浜松」は貴重な存在です。浜松地区のボーイスカウト運動は、立派な地方文化の現われです。浜松地方は文化不毛の地といわれているだけに、将来に向って新しい文化を皆んなで作り出していかねばならない土地柄だと考えています。そのためにも、青少年健全育成こそ重要な施策であり、人作りのためにも、私達スカウターの最も、身上としている生活規範、清規三事（チンギサンジ）

実践躬行　Activity First
先ず第一に実行する
精究教理　Evaluation Follows
評価これに続く
道心堅固　Eternal Spirit
永遠の精神

を心として、スカウトのために奉仕して、いかねばなりません。

改めて、創刊号よりページをひもといて見ますと、時間のたつのを忘れてしまう程、懐かしいものです。温故知新、「スカウト浜松」の益々の発展を心より願い、今日までの刊行に関係された方々、尚現在関係されている皆様に心からの感謝を申し上げまして、100号発刊のお祝いの御挨拶といたします。

弥　栄

浜松市長

栗原　勝

ボーイスカウト浜松地区の広報紙として、「スカウト浜松」が昭和37年7月20日に創刊されて以来、今回記念すべき100号目を迎えましたことを、心からお祝い申しあげます。

ボーイスカウト運動は、世界的に広がりを持つ青少年団体の活動として、118か国に約1,600万人のスカウトのみなさんが、「三つの誓」の実践を行動の中心として、各地で訓練や奉仕などに励んでいることは、国際的に高い評価を受けているところであります。

特に、みなさん方は野外活動のパイオニアとして、キャンピングやハイキング、さらにはヨットやカッターなどの水上活動等、自然の中での共同生活を通して体験的に活動していることは、私の市政の基本方針としている「人づくり」そのものであり、豊かな人間都市づくりの原点だと考えております。

浜松市では、このたび青少年を主体とする市民のみなさんが、自然の中で協同生活を通して、「ふれあいと健康・創造と協同」に満ちた野外活動を体験していただくため、引佐郡引佐町川名に「浜松市かわな野外活動センター」を建設いたしました。

特に今年は「参加・開発・平和」をテーマとする国際青年年にあたり、意義深い年でもあります。

また、科学技術の進歩は目覚ましいものがあり、折りしも筑波では「科学万博（EXPO '85)」が開かれておりますが、本市におきましても児童・生徒や市民のみなさんが、目で見、手に触れ肌を通して、「自然のしくみ」や「新しい科学技術」を知る施設として、浜松駅南に建設を進めております「(仮称)浜松科学館」も、来年の5月にはオープンする予定であります。

このほか、音楽のまちづくりや地域スポーツの推進のため、各種の施策の充実や施設の整備をすすめております。

これからは、こういった諸施設を生きたものとするよう、みなさんに大いにご活用いただくとともに、立派な社会人となられるようご期待申しあげましてあいさつといたします。

可美村長

大場賢治

昭和37年に「スカウト浜松」創刊号が発行され、23年を経て100号を迎えるにあたりスカウト諸君に一言ごあいさつを申し上げます。

浜松地区のスカウト運動は、幾多の苦難の道を乗り越えて、多数の人々の善意と奉仕にささえられて今日に至ったことはご同慶にたえません。

世の中が目まぐるしく変化をしている昨今、青少年を取りまく環境は、かならずしも良い環境とはいえないものがあります。

物質的な豊かさの中での青少年の教育は、我々にとって未だかって経験したことのない現象であり、為政者も、教育者も、父母も、とまどいを隠すことは出来ないのが現状です。といって手をこまねいて見過すことの出来ないのが青少年の非行問題等であります。

もはやその対処は、抽象論では片付けられない緊急な国民的課題であります。大人達は姿勢を正してこれに立ち向かわなければならないと思います。

スカウト運動の目的は、青少年を社会の害から守り、善良な社会人となるよう社会的訓練を行ない、社会に奉仕し、スカウトはお互いに兄弟であるという固いきずなをもって結ばれ平和をもたらそうとするものであり、青少年にとっては、最も適切な教育運動であると思います。

これからのスカウト運動は量よりも質と言われていますが、今後ともスカウトの「ちかい」と「おきて」にもとづいて大いに研さんし、スカウトの技能と精神を磨き平和のために向上、発展されるよう期待するものであります。

終りに臨み、指導者の常日頃の社会奉仕に対しまして心から感謝するとともに、どうか今後とも有益な社会教育の団体として指導者のご尽力と隊員諸君の努力によって、より一層立派な青少年と隊づくりをなされますようお願い申し上げましてあいさつといたします。

自助自律

細江町長

早戸新一

スカウト活動が、30年の歴史を経て、広報誌が100号となり、たいへん喜ばしいことと思います。我が町・細江町も今年4月1日に、満30年を迎えました。我が町とスカウト活動とが、30年を共有したことを思うと感慨に絶えません。その間の皆様方の御努力に対して、深く敬意を表します。

私は、自助自律という言葉が好きです。皆さんはスカウト活動を通じて、健全な心身の鍛練に努めていることと思います。健康な肉体と健全な精神と充実した気力と自助自律の気概を持つ人間が、私は健康な人間だと考えます。昔と違って、現代は、自分を鍛えることが、自ら進んで行わないとできない時代です。そういう意味で、皆さんは、スカウト活動を通じて、自らを鍛えることができて幸福な人達だと思います。

学校では「いじめ」が問題となっていますが、皆さんは、野外キャンプ等の活動を通して、人間は、お互いに助けあい、協力しなければ、生きていけないことが、よくわかっていると思います。また、原始生活と現代生活とのギャップについても、理解できるのではないかと思います。その貴重な体験を生かして、自分の実生活でより豊かな、活力のある毎日を過ごし、他人への思いやりの心も大切にして、お互いの幸福を願っていると思います。

現代は、自分の権利は理解できるが、自分の義務は果たさない人がいるようです。しかし、皆さんは進んで社会奉仕をしています。人間は社会的な動物だと言われますが、社会生活をするには、他人の助けも受けているわけです。皆さんの社会奉仕の精神を大切にして、これからも社会奉仕活動に励んでいただきますよう願っています。我が町でも、6月に全町で、地域住民が総出で、河川や道路、公共施設の草刈りや清掃等の環境美化を行っていますが、自分たちの地域は、みんなで育て、みんなで良くするというお互いの気持を大切にして、この運動を行っています。町づくりのもとは、人づくりです。皆さんも、今後の活動で、豊かな、思いやりのある仲間を、少しでも多くすることができることを願っています。

心を育てる

引佐町長

柴田信夫

子どもの幸を願わない親は誰一人としていないはずであります。誰よりも愛し、誰よりも身近に付添い、願いをこめて親が育てているのに、反社会的行動を起す青少年が出来上るとしたら、その原因は何か、その責任は誰か、時々自問し考え込むことがあります。

人間は如何に知能が高く、経済的に恵まれても、決して1人で生きていくことのできない動物であることを忘れている所に、問題があるような気がします。自然の限りない恵みを受け、多くの人達の善意に支えられ、生かされていることを、あらゆる機会を通じて、子ども達に体験を通して知らしめ、心の中に、しっかりと定着させなくてはならないと思っています。この種はやがて、感謝の花を咲かせ、思いやりの実を結ぶであろうことを信ずるからであります。それがひいては、なくてはならない人間として尊重され、敬愛されることにつながるのではないでしょうか……。

21世紀を負托する子ども達であります。この子ども達の、人間的成長の成否は、即ち国家の命運を左右するといっても過言ではありません。世界のどの国々の人達からも尊敬される国民を育てることこそ大人達みんなの責任であります。

そんな事を考える時、体で憶え、心で奉仕する人づくりに、懸命な努力を注がれているボーイスカウトの関係者に、心から感謝と敬意を表するものであります。

勿論、物欲思想の優先されるような現代社会にあって、皆様方の崇高なボランティア活動は極めて価値高いものと存ずるのであります。育てることは容易な業ではありませんが、大きな希望をもって、ご奮斗なされることを期待するものであります。私も微力ではありますが、「まちづくり、国づくりは人づくり」をモットーに努力をして参る所存であります。どうか、この活動の輪が益々広がり、よき地域社会の醸成ができますことを、ご期待申し上げ、各位の弥栄をお祈りして、お祝いといたします。

日本ボーイスカウト
静岡県連盟長 尾 崎 忠 次

連盟長と皇太子殿下・美智子様［中日新聞］提供

浜松地区誌が今回の発行で、第100号になった事で、まず第1によくやった弥栄！　と敬意を表する次第であります。何としても100と云う数字は誠に御目出たい数字で、又後に引けない心意気を持った数です。

百天竿頭一歩を進む。と云う禅語がありますが、相対を否定して絶対へ。さらにこの絶対をも越えよ。しかも観念としてではなく、実践と経験によってもう一度体に受け止めよ。と云う烈々の教えをこの語に感じます。そうした意味でも、浜松100号は輝かしい第一歩を踏み越えられた訳であります。しかしこの事は言うは安くして仲々出来るものではありません。又百全と云う言葉があります。一つも欠けた事が無いと云う事だそうです。スカウト浜松は誠にその通りであります。しかしこうした事は言うはやさしくても編集される方によっては並大抵の事でない事は充々御理解申し上げて居ります。

「たちばな」がまだ静岡BS・GS広報として発行し、2回も挫折し、ようやく「たちばな」として落付いて参りました。それやこれやを考えますと、今回で堂々と100号を発刊成しとげられた事に対し心から敬意と弥栄を送るにやぶさかではありません。

どうぞ、この100号を第2の出発点として、益々回を重ねられ、浜松地区のオアシスとなって地区スカウト諸君の心を、スカウトのミネラル水として、うるおしてあげて下さい。

スカウト浜松弥栄

ガールスカウト
日本連盟静岡県支部支部長

水 野 妙 子

ボーイスカウト　万才！

「スカウト浜松」第100号おめでとうございます。

歴史と伝統につつまれ、栄光に輝くボーイスカウトは私のいつも尊敬申上げるところでございます。県連発行の「たちばな」と共に折にふれ愛読しておりましたが、浜松地区の皆様の“やらまいか”がここまで発展していようとは驚きと共に尚一層の敬意を表する次第です。

去る5月ガールスカウト静岡県支部総会において支部長の大任を拝し、新役員一同、微力ながら努力して参りたいと存じております。どうぞ今後とも倍旧のご支援、ご指導を賜りますよう、この書面をおかりして、前任者へのお礼と共にご挨拶に代えさせて頂きます。

これからも各所で同じ丘に立ち同じものを喰べ同じ活動をさせて頂くことが多かろうと思います。そんなとき競走しあうのでなく、お互いに協力しあい交流を深めたいものでございます。21世紀に活躍する次代のスカウトを立派に育てあげる為にもボーイスカウト・ガールスカウトが一丸となって事にあたらねばなりません。

感受性の強いヤング、吸収力のめざましいスカウトの可能の範囲でこれらの環境づくりに自分達のもつエネルギーを全開して努力していきましょう。

雨にも負けず、風にも負けずのキャンプ精神こそ輝かしい明日をきずく源となります。両者のすばらしい友情の中で明日をめざして、今日の大切さを、スカウト達にわかってもらいたいのです。

今日を大切にすることこそ、美しい未来をひらく道につながりましょう。

スカウトの心と力を結集して団結と協力により、新しい、美しい人間関係の花を大きく開かせたいものでございます。

浜松に芽生えた「スカウト浜松」ボーイスカウトの皆様の願いが幾久しく伸び続けます事を祈り、今後ともガールスカウトとの交流の場としても拡充される事をお願いして、筆をおきます。

弥　栄

浜松のBSの草創期

浜松地区
副協議会長　内田嘉一

激しかった第２次世界大戦が昭和20年８月15日に終戦となり、その年の９月中旬に私は復員して参りました。その時の浜松駅前附近の様相は今でも忘れません。種々雑多の品物を木箱の上に並べての野天の闇市、それに群がっている人、人、人、汚ない服装、臭い匂い、その人込みの中に交って右往左往している多くの浮浪少年達の姿。髪はボウボウ、垢だらけ、つぎはぎだらけの衣服、ギラギラしている目。その様相はおそらく浜松だけのものではありますまい。日本中の都市の様相であったでありましょう。このままでは一体日本はどうなってしまうのでしょう。静岡県は？　浜松市は？

私は考えました。荒廃した郷土、国土を回復する為にはどうすればよいのか。そうだ。頼れるものは経済や政治の力ではない。無限の資産である青少年の未来にかけるしかないのだ。日本の国の歴史を思う時、いつでも大変なそして大事な時に、起って救ったのはいつも青年の力であった。その為には、荒れ果てた今の少年達に、豊かな心を育ませ、逞ましい身心を養わせるよう、青少年の健全育成を図り、それを実行することしかないのだと考えたのです。

その翌年の夏漸く成子町の現在地にバラック建の住宅を建てて住み始め、食糧や家計への気苦労は絶えなかったが、少年達への奉仕ということに取りかかりました。近所の子供を集めての子供会、少年自治会、書道教室、山遊び、ハイキング等。いろいろ考えては実行してみたが、まだ世の中は安定していない為に定着しなかったのです。いろいろと考え悩んでいた時、フト自分の子供の頃の少年団の事を思い出したのです。揃った服装、共通したマーク、約束や規律を作って指導したら定着もするであろうし、効果もあがるであろうと考えました。

折も折、新聞紙上でボーイスカウト指導者養成講習会が吉原市（現富士市）で行なわれる事を知ったのです。当時の市議会議長木全大孝師と相諮り、左右田丈夫、鈴木久雄と私の三人がその講習会に参加する事になりました。昭和29年６月18日～21日間の３泊４日。目的、理輪、歴史、方法、現状等を知って驚くと共に全く感服してしまったのです。

浜松に帰ると直ちに木全師に報告すると共に浜松地方で始めてのＢＳ隊結成の準備に着手しました。何分にも始めての事なので随分苦労もしましたが漸く多くの方々の理解を得る事が出来て、同年６月29日育成会結成準備会。７月28日仮隊結成、訓練開始８月29日隊審査を受け、登録手続き完了、何回かの会合や集会を経て、９月11日夕から大厳寺の境内広場にて、市長代理、市議数名、県居校学区内の自治会長、新聞記者他、学区内からの多くのお客様を迎えて、厳粛で盛大な浜松１隊の結成式が挙行されました。その翌30年夏には東伊場町に浜松第２隊と舞阪町に浜名１隊が、その年の秋には東洋紡績浜松工場に浜松３隊が結成されました。更に31年７月高町に浜松４隊、その年秋中野町に浜松５隊が結成されました。その頃は現在の団制度が施行されていなかったので２隊３隊５隊が消えて行ったのは誠に残念なことでした。昭和33年４月団制度が施行せられてからは消えて行く隊は少なくなりました。昭和31年浜松地区が結成せられ、それから、浜名、湖西、北遠、浜北の各地区が浜松から独立して西遠５地区に発展したその基が浜松１隊の誕生であったのです。

浜松で始めての指導者講習会
　昭和29年11月25～28日　中沢町常楽寺
第１回日本ジャンボリー参加
　浜松１、２、３、浜名１　の各隊
第１回地区合同野営　引佐町三嶽山
　昭和31年８月22～24日
国体奉仕　水泳、跳込み、ボート、ボクシング、バレー
　浜松１、２、３、４、５、６、浜名１、２、３
浜松で始めての県連総会、県大会
　昭和36年４月23日　浜松商工会議所
　航空自衛隊、動物園見学、大会は元城町市営プール、市中大パレード
スカウト浜松の創刊
　昭和37年７月
隊長、副長の研修会、毎月一回“三士会”
乃木さんの銅像建立　舞阪町弁天島
　スカウト募金で、昭和35年４月３日除幕式
浜松地区の三大恩人
　故木全大孝師、内田六郎氏、吉沢純道師

第100号記念号に寄せることば　—歴代編集委員長—

祝　100号

（初代編集委員長）
日本ボーイスカウト
静岡連盟コミッショナー
三　輪　悦　爾

昭和37年７月20日、創刊号発行される。そして今100号。23年間のスカウト浜松の歴史が刻まれていることの重みに感激と弥栄をお送り致します。当時小生も地区事務長と云う役を果たす旅の出発点でもあったように想いを馳せるわけであります。

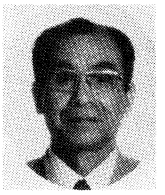
当時内田嘉一地区コミッショナーが、アジアジャンボリーに向って、何かPRしようではないかと云うようなことで、出発したような気が致します。

それも、もうすぐ出発をひかえ、編成に取り組んでいた最中の出来ごとでありました。ブッツケ本番も良いところの創刊号でありました。一頁をごらんになればおわかりいただけると思いますが、ジャンボリーの語源と歴史、そしてアジアジャンボリーについて懐かしく当時が想い起されます。

１号から23号まで（昭41.12.18）小生が担当。24号から59号まで杉山友男氏が担当。60号から87号まで山中将司氏が担当。88号から98号まで奥沢達司氏が担当。99号から石津　宏氏担当と、永い年月が浜松地区のスカウティングの純正な発展を記録してきた、大変貴重な資料の一つでもあり浜松地区を支えてきたものとも云えます。現在は、組織拡張委員会の仕事の一つでもありますが、編集を担っているもののほかに、これまでの発行が、かなえることのできたのも地区、団の関係者の努力の賜と深く感謝申上げなければならないと思います。

当時のスカウト人口は、浜松１、２、４、６、７、９、浜名１、２、４、５、引佐１、周智１の合計13ケ団505名だったけれど今や2,000名を数える地区に発展しているわけであります。その歴史の中で、浜名地区が独立し、湖西地区が独立し、北遠地区が独立し、浜北地区が独立し、数えきれない思い出が刻まれております。２回から８回までのジャンボリーに数多くのスカウト、スカウターが参加し大いなる成果が上っていることもご承知の通りであります。このなかで特に数多くの海外派遣を通じ国際親善に役立った事もありました。そのスカウト達が今や、一人前の男として社会に貢献している姿を見る時、又指導者になって頑張っている時代の到来に、関係している一人として目がしらが、熱くなるものを覚えます。

「スカウトマスターが、自分のした仕事が成功しているかどうかを判定することができるテストが唯一つある。それは、彼が与えた訓練によって世に送り出された少年たちが、良い公民になったかどうかが、それである」とB−Pは云っている通り、彼等は真に健康で、幸福で、有用な公民であるかによるのである。100号を通じ、B−Pの言葉の通りである事を祈って筆をおく。　益々の弥栄を。



温故知新の心で100号を迎う

（第２代編集委員長）
日本ボーイスカウト浜北地区委員長
静岡県連盟組織拡張委員長
杉　山　友　男

「スカウト浜松」100号達成おめでとう。心よりお慶び申しあげます。何事でもそうですが「言うは易く、行うは難し」といわれるように「スカウト浜松」が100号まで蓄積してきた努力は、文字通り浜松地区の各位が幾多の困難や障害と闘いつつ今日まで“努力された証し”そのものであろうと思います。

思い起こせば私ども浜北第１団が浜松地区の一員として発団わずか数年で、私に組織・拡張委員長という大役が廻ってくると共に、「スカウト浜松」の編集も担当せよ、というハメになってしまい、昭和42年１月20日発行の24号より私が責任者として登場することになってしまったのです。

当時は浜松児童会館の狭い事務室の一隅を借りて、三輪事務長が「スカウト浜松」の編集も兼務するという文字通り１人２役の奮闘ぶりに、ひたすら敬服していた矢先のことで、何から手をつけてよいか分からず、三輪さんに教えられ、うろたえていた毎日でありました。

以来、「スカウト浜松」編集という大仕事は、いつも私の脳裡に宿題となって覆いかぶさってきて、気の安まるときがなくなってしまいました。その後、責任者のところに私の名が消えたのが昭和50年の60号ですから足掛け９年、36回分の編集を担当させて頂いたことになります。

今にしてみれば、100号の３分の１に当たる分を担当させて頂いたことで、参加したもののみが知る喜びを、静かにかみしめることが出来て嬉しく思う次第です。

「温故知新」即ち「ふるきをたずねて、新しきを

知る」私はこの言葉が好きです。そんな気持で私の手元にある７号より99号まで、いま静かにめくってみると、故内田六郎協議会長、故吉沢純道協議会長（共に当時）を始めとして多くの大先輩や諸先生方のご活躍ぶりや信念などを肌で感じ、改めて身のひきしまる思いがして、その価値を再確認した次第です。

最後に人去り、また来たる、千変万化の社会情勢の中で「スカウト浜松」が永遠のスカウト集団の要となり、この灯を守りつづけるための原動力たらんことを切に念願して100号達成の祝福の言葉とさせて頂きます。

弥栄、スカウト浜松

（第４代編集委員長）
浜松地区組織拡張副委員長
奥　澤　達　司

「スカウト浜松」100号記念誌発行おめでとうございます。

私が「スカウト浜松」の編集に携わったのは、昭和57年４月から60年３月までででありました。

前任の名編集長山中将司氏より懇切丁寧な御指導を受けて、初仕事の87号発行をお手伝いしたのもつい先日のように思われます。

今、手持ちの綴り込みを読んで見ると、その都度は広報誌でしかなかったものが、浜松地区歴史の誌としての重要な一面をもっていることを発見し、発行継続の必要性大なることを感じた次第であります。

想い出の中に、第８回日本ジャンボリーを特集した57年10月25日発行の89号を、日本連盟主催の第２回全国広報誌コンテストに応募したことがあります。

これでベスト４の一誌に入選し、「昭和37年、創刊のキャリアを生かした編集です。随所に８ＮＪの写真を載せたのは参加出来なかった多くのスカウトや父母に若人の祭典を彷彿させる訴求力がありました。」と評されました。これは歴代の編集責任者の三輪悦爾、杉山友男、山中将司の各氏、写真家としての高倉清雄氏、事務局の山口照司氏、又御協力下さった諸先輩への称賛でもあり、関係者の一人として名誉に思っております。

他、班長訓練野営参加スカウトからの現地レポートには胸を打たれます。

渋川、川宇連の３月はまだ冬です。つららがビッシリ下がる寒さの中で受ける訓練はきびしい。この様子が全員から隊長を通じてレポートされます。

中には泥や涙かと思われるような「しみ」のついたものもあり、現地直送の気持が伝わって来ます。

小・中学生が習得した班長の人格と指導力、技術と知識等についての記事を読み乍ら、リーダーや裏方さんたちの御苦労を思い、又スカウトたちがこんな体験を通して学んだ芽生えを、原隊でそのまま伸ばし、立派なスカウトに育てて欲しいと祈らずには居られないのが毎年の４月号であります。

国内外を問わず大きな行事に参加して来たスカウトの報告も楽しみであります。１まわりも、２まわりも視野を拡げて帰って来ます。これからは可愛いビーバースカウトの記事も載るでしょう。みんなで更に素晴らしいスカウティングをし、素晴らしい「スカウト浜松」を育てましょう。

ボーイスカウトを知っている人は15％しかないと言う統計が出ています。「スカウト浜松」は学社連携の大切な手段でもあります。広報誌－ＰＲ誌に更に利用致しましょう。

感謝の100号

（現編集委員長）
浜松地区組織拡張委員長
石　津　　宏

「スカウト浜松」100号を発行するにあたり発行責任者となることになりましたが、スタッフの皆さんが精力的に行動されたので、多くの皆様より玉稿をたまわり、紙上に花をそえていただくことが出来、又広告のお願いをしましたところ心よく御協力たまわり有難うございました。

昭和37年７月に創刊号を発行された三輪さん、当時はどんなものだったでしょうか。団も天竜川以西全域を含んでいるので世話やら編集も大変だったろうと思います。その後、杉山友男氏、山中将司氏、奥沢達司氏がそれぞれ引継ぎ立派に編集の任務を果たされ、欠番もなく発行されたことは誠に素晴らしく頭の下がる思いであります。

スカウト浜松はボーイスカウト浜松地区の機関紙であり、スカウト活動を知っていただく広報紙の役目をもっています。スカウト活動の教育・実践活動、各種行事報告、国内外の行事のお知らせ、地区のうごき等、又スカウトの作文、写真等の掲載により団のつながり、資質の向上に役立つように考えています。

「スカウト浜松」は今日までの意義をふまえて、これからも次々と発行されるでしょう。内容についてもより充実したものにすべく努力する所存であります。

今後も各位の御支援と御協力を御願いする次第であります。

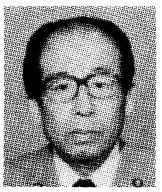
第100号記念号に寄せることば —浜松地区各種運営委員長—

100号に寄せる言葉

地区副委員長
太田山野営場特別委員長
宮　澤　廣　士

「スカウト浜松」が第100号を迎えることになりました。こんなに永く続いている広報誌は全く珍らしい程少いのです。良くもまあこんなに続いたものだと驚きます。20年の余も前の或る年の地区委員会の席上で私はこの広報誌は組織拡張委員会が担当してやることが良いのではないかと提案しました。そんなめんどうな仕事をさせられるなら委員をやめさせて下さいと云う意見まで出て議論になりましたが結局この提案は採択されてそれ以来ずーっと続いているのです。一つの事が永く続いていると自らそれなりに歴史が作られ誇りが生まれ途中で打切ることが非常に申し訳ないことに思えて来るのです。ここのところが大切な点だと思います。米国のヒルモント野営場を寄附したフィリップと云う人は次の様に書き残しています。

- 熱心な持続力や障碍を乗りこす注意力、不撓の精神力なしには立派な成功は有り得ない
- 最も効果のある教訓は言葉でなく実行にある



100号に想う

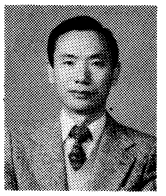
地区指導者養成委員長
野　中　豊　治

「スカウト浜松」100号を心よりお祝い申し上げます。これまでの各号の中で、多くの指導者の方々がスカウト活動に関して述べられたご意見を読んだ時、指導者としてなお一層の精進をしなくてはならないと感じています。

特に、現在は子供たちの生活の中で、いじめや非行がはんらんしており、人間教育が重視されてきています。

子供たちの望ましい人間形成のためにスカウト活動は大へんよいものでありますが、子供たちを組織に入れたからよしとしたり、隊の指導者にすべてをまかせておいてよしとしたりしないで、スカウトに関係するすべての大人たちがもっと積極的にさまざまな活動に直接かかわりを持っていくようにしたいものであります。

それが、多くの先輩たちが叫び続けてきたスカウト活動の実践に通じるものであり、子供たちを育てていくことになるのであります。

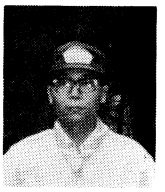


スカウトと英語

地区財政委員長
大　木　俊　夫

およそ青少年ボランティア活動の中で、ボーイスカウト運動ほど世界的、国際的な規模の運動はないのではなかろうか。英語圏の国々でスカウト組織を持たない国はないようであり、スカウト登録数世界10位までに入る国の中で英語が公用語でないのは、日本、韓国、タイだけである。スカウトは英語の運用能力を身につけて、もっと諸外国のスカウトと直接または無線、文通などによって交流すべきではないだろうか。

発祥の地がイギリスだけあって、スカウト活動に使われる用語には、英語をそのままカタカナに写したものや、英語からの訳語が非常に多い。こうした言葉を正しい発音、綴字の英語にもどす努力をするだけでも単語力が増し、英語への親近感も湧く。中・高生のスカウトは、英語を得意科目の一つにしてもらいたいが、体育の授業だけ努力してサッカーの名選手になった者はいないのと同様、学校の授業だけに頼っていてはおぼつかない。英語習得の場合にもスカウト活動と同じく、自発的精神（ボランティア精神）が旺盛か否かに帰するようである。



教育と学問

地区進歩委員長
山　中　洋　一

教育という文字が新聞紙上をにぎわしているが、学問という言葉はなぜか時代がかって我々の耳に伝わって来る。二つの言葉の持つ意味はかなり異っている。

教育は文字通り「教え育てる」ことであり「教える」「指導する」ということである。他方、学問は「学び問う」「学び修める」という、いわば「教育」が受動的であるのに対して「学問」の方は能動的である。

人間は能動的に自分から学んでこそ進歩があるのであって、一方的に教えられたことは忘れやすく、身につきにくいものである。

社会人になると他の人がすすんで教えてくれる機会は少なくなる。自分から積極的に学ぶという心があるかどうかによって差が拡がっていく。自分で勉強し、実践し、少しずつでも進歩して自己を確立していく。これが人生ではないでしょうか。

近頃思うこと

地区健康安全委員長
平　山　木　一

今年大学2年になった長男が、カブ隊に入隊した時から、私とスカウティングとのかかわりが始まりました。

それから12年間、健康安全委員会に所属し53年度から委員長を仰せ付かっています。

子供は、ボーイ隊で後上進はしないまま辞めたが、親の方は永遠のスカウトで、そのままやっかいになっている訳です。

団の会合、地区の会合共に欠席がちではあるが、与えられた義務は果たさなければいけないと頑張っています。

健康安全委員会のメンバーは医師が多く、多忙な方々ばかりなので、行事への奉仕。協力が仲々むづかしく、その都度大変苦労し結局いつも2、3のメンバーでやりくりしているのが現状です。

新しい組織になってますます難しいことになりそうです。

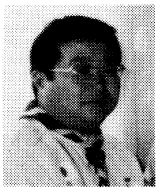
全員参加のスカウティングであり度いと念じております。健康安全委員会の皆さん、御協力をお願い致します。

スカウト活動との出会い

地区会計　小野田将司

私とスカウト活動の出会いは、昭和39年夏の浜松地区合同野営（3泊4日）のあの暑くて、長いキャンプが最初でした。

当時は、渋川の野営場も開拓の途中でした。背丈程に伸びた草や、所狭しと植生している灌木類、それから下枝落しと、それらの作業をこなしてから設営です。丸木での橋造り、食卓・椅子・調理台・かまど等、すべて縛材や竹のすのこ等で造るのです。夕方5時近くにようやく夕食の煙があがり、山の中にスカウト達のマキ集めや布ばけつでの何度となく往復する水くみ等が、悲しく聞こえるひぐらしの鳴き声に追われてはじまります。その夜のクタクタに疲れた身体にあたるゴツゴツの石の感触（グランドシートの下は敷草のみ）と川の流れの水音に、何となく心のわびしさを感じたものです。それらを感じる心こそ、キャンプ生活の一番大切な教えでした。



山中野営場にて

事務長
中　島　繁　光

台風6号の近づいている山中野営場の研修室でペンを執っています。6月29日㈯の夕刻に集まったGS・BS青年シンポジウム実行委員会が、青年の手により展開されています。

1階玄関の正面に「佐野常羽」先生の胸像があります。2階の研修室には、第1回ギルウエル中央実修所の記録写真が展示されています。

佐野先生が、その当時、何に燃え、何に感じていたのでしょうか。想ってみるだけでも、胸が熱くなります。「ワレハ　フクロウ　タノシキフクロウ　ツトメハタシ　ココロ　サヤカ　コヨイウレシ　ホシアカリニ　ワガ　フルス　ヘ　カエラナン　アア　フジノ　フモト　ヤマナカノ　モリカゲニ」

降りしきる雨音を、枕辺に聴きながら、静かになった宿泊棟で、続きを書いています。

スカウティングの中に、声を大きくして伝えなければならない事がある。スカウティングは、1人1人の個性に対して、眼を向け、そのよい資質を伸していくところに、その方法がある。スカウティングを継続していくには、絶ナ[illegible]熱意が、そのエネルギーとなる。そして[illegible]かい」と「おきて」の実践が。

自[illegible]る決[illegible]です

第100号記念号に寄せることば —浜松地区各コミッショナー—

100号の発行を祝す

地区コミッショナー
玉　木　功　一

地区広報誌スカウト浜松が、100号発行を達成され、心からお祝い申し上げます。

これは、発行に関係された皆様が、一丸となって黙々と、スカウティングの一環事業として積み重ねて来られた御努力の賜と敬意を表します。

申し上げる迄もなく、ボーイスカウト精神が求められているのは常に「今の時代」であります。

「今の時代」の正しい認識と、これに対するスカウティングの対応を誤ってはなりません。

文明の恩恵で豊かな物質に恵まれ、個人の自由尊重が叫ばれ、こんな素晴らしい時代はないかに錯覚されているのが「今の時代」ではないでしょうか。

物質に心を奪われ、放縦指向の時代は心を軽薄化し、社会は自分に仕えてくれる存在と誤解して参ります。

私達は今、神（仏）に仕え、他の人々に心を配り社会に対する責任を持つ人の教育を提唱したB－Pの教えに根を張り、魂の育つスカウティングを展開しなければなりません。

スカウティングを盛り上げることは、成人指導者全員の務めであります。

自分がやらなければ誰がやる！　と全員参加のスカウティング研さんし乍ら頑張りましょう。

こうした意味からも、今後スカウト浜松の担う役割は大なるものがあります。

益々の御精進をお願い致します。

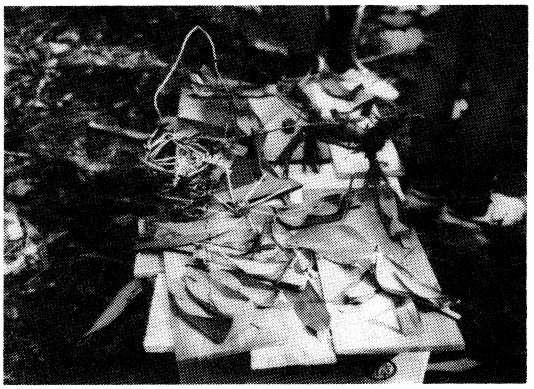
「出合い」を大切に

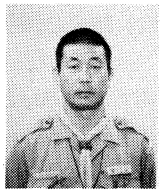
地区副コミッショナー
（訓練チーム担当）
柴　田　　薫

私は人との出合いを大切にしなければいけないと自分に言い聞かせ実行に努力しています。現代社会において、人と人との協力なくして生きられないからです。出合いによ[illegible]生まれた友情が支え合い、励まし合い、勇気づけて[illegible]て行く[illegible]とが出来るものです。また沢山の人々との出合いによって、色々と学ぶことが出来ます。沢山の人々にはおのおのの特色があり、その特色を得て学ぶことが出来、それによって次へのステップも生まれて無限にひろげることが出来ます。「他山の石、以（もつ）て玉を攻（おさ）むべし」（詩経）まさにこれだと思います。

この出合いの巾広いのが我々のスカウト運動です。スカウティングは人の力となり、友誼に厚く、礼儀正しく、親切で、従順・快活・つつしみ深く、「さだめ」の実行をしますが、これ即ち出合いを大切にすることです。スカウティングはこの出合いの人々との合作であるのです。1人の力よりも、多勢の力によって作られて、互いに助け合い、協力し合って、スカウティングが行なわれるのです。

ちょうど交響楽団の1人1人の奏でる音色が合さり奥深く、華麗なシンホニーとなるように。このように考えますと、隊や団での運営は果たして合作されているだろうか、たった1人で苦闘していないか、と反省するものです。又その前に、出合いを大切にしているだろうか、と常に自問を怠りなくしたいと思います。





地区副コミッショナー
（CS 担当）

川　上　文　雄

我々スカウターは、自分自身の行動、言葉使い等を正しくしなくてはいけません。

今年の班長訓練野営の時、あるリーダーがいった言葉、おまえらよ ～ とよく使っていました。

その言葉を上班がまねしだしました。そうするとすぐに班長が言う、このようにこの言葉はすぐに全員にちかい少年達が言うようになってしまいました。

これを見聞きした時、私はこれはいけない。これをそのままにしておいては、悪い言葉が広がってしまう、と思い夜の人間関係技能の時間に、リーダーは子供に正しい言葉を使って下さい、と今日を反省しおねがいをしました。このように小さな言葉の一つですが、私達の行動、言葉を少年達は見守っていますので、つねに正しい行動・正しい言葉使いに心がけていきたいものです。

そうすることがスカウト道であり、又、少年達から尊敬されるリーダーだと思います。

再度“おきて”“ちかい”をとなえるのではなく実行して下さい。

そして楽しくスカウティングを行いましょう。

地区副コミッショナー
（BS 担当）

近　藤　孝　明

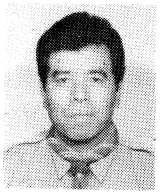
スカウト浜松、100号おめでとうございます。

第1号が37年頃だそうですからもう23年も続いているんですね。スカウト浜松を繙とけば、地区の歴史が一目でわかり、まことに貴重な資料ですし、こんなに長く続いているのも全国でも珍らしいこととおもわれます。

三島通陽先生も「歴史と伝統を重んじよ」といっておられます。「ギリシヤの世界ジャンボリーに参加した、わが派遣団は毎月の如く進歩を示し、何をやらせても評判がよく、世界の注目を浴び、ジャンボリー中にも、また欧州旅行中にも各地でこの道の指導者から賞讃のことばを受けた。私としてはまだまだと思うが、他人からみれば我が国のスカウティングも多少、成長しつつある。果たして進歩したとすればそれはなぜか、まただれのおかげかと考えれば、結局、わが国のこの道の歴史と伝統とによる。いいかえれば40年のわが国の歩んできたスカウティングの道によって醸し出されるふんい気の成長と考えられる。またわれわれは、このふんい気を成長させなければならない。このふんい気の中にこそわが教育の大きな力がある」とのべられています。

スカウト浜松も多くの先輩の苦労があって今迄続いてきたのだと思います。これから先150号、200号と益々充実したスカウト浜松になるように願ってやみませんし、浜松地区の発展と共に歩んでいただきたいと思います。

弥　　栄



私のスカウト活動

地区副コミッショナー
（SS 担当）

神　谷　恭　二

私が、浜松地区 SS 担当副コミッショナーをお引き受けして早くも3ヶ月近くになります。私は現在浜松地区内のシニアースカウト隊が、どの様に活動しているか、現況をよく把握することが次への進歩・発展につながると思い、浜松地区内シニアースカウト隊の活動の実態・活動調査を始めました。スカウト活動はボランティア活動・奉仕の精神を基調としていると思いますが、諺に「井の中の蛙大海を知らず」と云うことが云われています。スカウト活動に一人よがりにはなっていないか。世間一般のボランティア活動・奉仕活動をされている他団体をよく見聞・理解する心の広さも養いたいと思います。

ボーイスカウト活動には多くの人達が、それぞれの立場で奉仕され、協力によって良い立派な社会人を育てようと務めています。一人よがりにならず、組織の協力を得てこそ初期の目的を達成することが出来ると思いますので、私は目標を持ち反省の日々の中で、一人でも多くの指導者・スカウト関係者から協力が得られるように自己研鑽に励み信念のある担当者になる決意です。

「スカウト浜松」100号までのあゆみ

第1号　昭和37年7月20日創刊号として発刊。結成団は浜名1、2、4、5、6、浜松1、2、4、6、7、8、9、引佐1、周知1、の14団と登録人員505名であることを知る。**浜松9団結成**（6、10）

ジャンボリーの語源とその歴史、宮沢ひろし氏の日連総会に参加してが主な記事、4頁。

第2号　昭37、10、1

当時委員長であった内田六郎氏の「一言」と**アジアジャンボリー**参加の記事。

第3号　昭37、12、5

「スポーツとBS活動」内田時世副委員長ほか地区大会が11月3日児童会館で行われたことがわかる。

第4号　昭38、1、5

「新春に当りスカウトに贈る」平山市長の記事をはじめ内容も豊富となり6頁、年賀広告も始まる。**浜松第10団誕生。**

第5号　昭38、3、5

「BS創設前後のイギリス」柳本副委員長ほか連絡事項が多い。

第6号　昭38、4、15

「少年の冒険心を」浜松市社会教育課長・高橋俊雄氏の記事と37年度総会の記事ほか。

第7号　昭38、6、15

「カブラリーに思う」ほか5月26日日本体操祭に急造担架作りゲームに出場して特技を披露したことがわかる。

第8号　昭38、7、25

発刊一周年号、このなかで面白いのは「乃木さんとボーイスカウト」スカウト講座の1部であるが乃木さんがスカウト活動で先覚者の一人であること、弁天島の公園内にある「日本青少年キャンプの父、乃木さん」の胸像の由来が述べられている。**浜松第11団が6月30日結成**されている。

第9号　昭38、10、1

内田博人君が第11回世界ジャンボリーに参加した報告あり。於ギリシャ。

第10号　昭38、12、10

内田六郎地区委員長が、県文化功労者として11月3日表彰されている。

「浜松ボーイスカウト10周年をかえりみて」内田嘉一氏の記事、10月6日浜松市体育館ホールで10周年記念大会が行われていることを知る。**10月20日**[redacted]**竜第1団が結成。浜松第12団・7団より分封**（11、**浜松13団**（12、1）

第11号　昭39、、1、5

新年号らしい記事で一ぱい。

第12号　昭39、3、15

第13号　昭39、5、25

昭和38年地区総会が3月29日行われている。

第14号　昭39、7、25

第15号　昭40、1、10

新春号8頁、**浜名地区（5ケ団）独立、浜北第1団**（10、25）**浜松第14団**（12、25）**結成、**海外派遣報告記事も豊富。沖縄一牧野、スコットランド一宮沢の各氏。天竜市佐久の合同野営の感想等。

第16号　昭40、7、10

浜松第15団発隊（4、4）

第17号　昭40、12、20

10月24日始めてガール、カブスカウト合同で行われた地区大会が報道されている。浜松地区勢力959名。7.26。**浜松第16団結成。**

第18号　昭41、2、10

新春弥栄の大活字が目をひく。新春座談会があり、「中近東の旅から」鈴木秀彦氏。

第19、20合併号　昭41、6、1

地区総会で**新地区委員長に内田時世氏**が決まっている。

第21、22合併号　和41、8、28

岡山県日本原で行われた第4回日本ジャンボリー特輯号で内容豊富。**浜松第17団発隊**（8、28）

第23号　昭41、12、18

地区スカウト大会特集号、**12月2日杉山・組織拡張委員長がスカウト浜松編集委員長となり、第1回編集会議が開催されている。**

第24号　昭42、1、20

新春放談会が各委員長に依って語られている。記録は青葉宏次の大変な御尽力による。

第25号　昭42、5、20

本号より編集責任者が三輪悦爾氏より杉山友男氏にバトンタッチされている。

三輪氏の今までの大変な御奉仕に深く感謝したい。

浜松第18団結成（4、9）

拠出金制度を採択した42年度浜松地区総会の記事が主となっている。

第26、27合併号　昭42、9、30

地区合同野営（渋川）の記事を中心として内容豊富。

第28号　昭42、12、5

地区大会の記事と教育者とスカウト活動特集とし

て関係せらる古山、斎藤、外山各先生方の御投稿をお願いした。11.3 **三ケ日第1団が結成。**

第29号　昭43、1、25

新春弥栄明治100年のタイトルにそえられた中田島砂丘の遥拝式の写真は今年の参加者から見れば人数少し、時を感じさせられる。

新春放談会が例に依って巾をきかせ、宗教とスカウト活動特集で宗教関係者の御高説をうかがうことができる。

第30号　昭43、3、30

第31号　昭43、6、2

42年度地区総会の報告、**可美第1団の結成、** 5.10現在登録902名（すでに浜名及び天竜地区は別に独立している）

第32号　昭43、9、15

カブスカウト特集。宮沢隊長以下カブ関係者の力作で一ぱい。6月9日に行われた草薙運動場に於ける県大会の模様。竹山知事を名誉連盟長に推薦。**9月1日第19団結成式。**

第33号　昭43、12、25

11月7日市営グランドで行われた地区スカウト大会の記事、なかでも御元気な姿の内田会長が平山市長と並んでおられる写真が印象的。

第　4号　昭44、1、25

新春号、内田会長の「謹賀明治百一年」ほか。

第35号　昭45、6、25

地区総会が新装なる浜松市青少年の家に於て行われ、その報告事項が主。

第36、37合併号　昭44、9、15

8月10日朝霧高原で行われた総決起大会の記事その他原稿多数、編集子悲鳴をあげ10頁、三輪—フイリッピン、宮沢—アメリカ、小野田—ボンベイ等各氏の海外だよりで充実。**浜松第20団発団（8.24）**

第38号　昭45、1、15

新年遥拝式から日本ジャンボリーの年の夜明けを感じる。各氏の抱負も力強い。10月26日東小学校で行われた地区大会の記事も詳細に亘って。

第39号　昭45、5、15

地区総会の報告と海外だより。**新設団細江第1団（3月1日）浜北第2団（3月29日）**

第40号　昭45、7、20

スカウト3倍増計画の現状と今後の計画が中心に—世界ジャンボリーを迎えて—登録人員1,278名を数う。

第41号　昭45、11、15

第5回日本ジャンボリー回顧特輯号とし、巻頭に皇太子御夫妻をお迎えした写真を始めとして各頁共充実した8頁。

第42号　昭46、1、25

世界ジャンボリーの年、新春特輯号として各氏の抱負、11月15日の地区大会記事他。

第43号　昭46、5、1

46年度地区総会の報告と2月21日児童会館で行われたB—P祭関係の投稿がハイライト。**浜北第3団のBS、CS、GSの合同発隊式**が珍しく2月14日その他カブ隊がぞくぞく誕生。

第44号　昭46、7、25

13回世界ジャンボリー内容の紹介号

第45号　昭46、11、20

第13回世界ジャンボリーの回顧特輯号巻頭高倉清雄氏の迫力あるシルエットの写真を始めとした多数の写真と各位からの投稿。編輯子の苦心によるジャンボリーの記録等自信を以ってお送り出来るものが完成した。12頁。

第46号　昭47、1、25

この頃よりスカウト浜松に寄せる全員の熱意たかまり原稿山積、投稿する人たちのことを思えば、ボツにすることは忍びず遂に20頁に及ぶ内容になってしまった。スカウト浜松の財政をピンチにしてしまった曰くつきの号。

浜北の県立森林公園で行われた地区大会のたのしい思い出の記事で一ぱい。「愛国心」ほか内田嘉一氏の各随筆は読者を感動させる。**12月26日浜松第21団結成。**

第47号　昭47、6、15

47年度地区総会報告、2月20日市立高校講堂で行われたB—P祭の記事。**1月16日引佐第2団、3月20日浜北第4団夫々発隊式。**

第48号　昭47、8、25

渋川川宇連に於ける地区合同野営（8月10日～13日）を中心として。矢田県連理事長と竜口和弘野営行事委員長の訃報が胸をうつ、御冥福を祈る。

第49号　昭47、11、1

県連結成50周年記念海外視察研修アメリカ派遣団帰国報告特輯号。内田嘉一の力作を始めとする三輪、宮沢、斎木、杉山正禎各氏の玉稿にて紙面にぎやか。

第50号　昭48、1、25

50号記念誌を編集。スカウト浜松50号に寄せての記事。アマチュア無線機を設置、**地区野営行事委員長竜口和弘氏**御逝去。

第51号　昭48、6、1

地区総会の報告。地区スキー訓練第一回開催。21団カブ隊発足。

第52号　昭48、8、20

県大会（於掛川）、**稲垣文雄氏逝去、**観音山自然の家オープン。

第53号 昭48、11、15
朝霧高原にて浜松地区合同野営行われる。日連総長松方三郎氏死去。
第54号 昭49、1、20
浜松地区創立20周年号、それらに寄せる記事、ライオンズクラブより**鴨江寺ボーイ倉庫受渡し**。
第55号 昭49、4
地区総会報告。BSソフトボール大会開催。
第56号 昭49、8、25
第6回日本ジャンボリーの紹介。
第57号 昭49、11、10
第6回日本ジャンボリー報告。地区大会中田島にて開催。**協議会長内田六郎氏逝去**。
第58号 昭50、1、25
県西部大会開催（湖西）浜北1団10周年、14団10周年。県連盟長川井健太郎氏死去。**地区進歩委員長大橋俊蔵氏逝去**。
第59号 昭50、4、1
リーダー紹介1、6、14、15、21、22団
第60号 昭50、7、1
地区総会報告。吉沢純道氏が日連感謝賞を受く。リーダー紹介10、16、18、可美1、20団・22団**発団本号より編集担当が杉山友男氏より山中将司氏に、杉山さん御苦労様でした**。
第61号 昭51、10、1
西部ブロックキャンボリー開催。4団20周年。リーダー紹介4、7、11、12、19団
第62号 昭51、1、1
山本知事の新年挨拶。県西部大会（中田島）、リーダー紹介、浜北1、2、3、4団、**第14回世界ジャンボリー**。
第63号 昭51、4、1
井野氏の組織拡大について。**23団24団の発団**。第1回写真コンテストの募集広告。
第64号 昭51、7、1
地区総会の報告。朝霧にて県大会。平山市長日連感謝賞授章。団委員紹介10、16、18、23、可美1。
第65号 昭51、10、1
第1回写真コンテスト入賞発表。11団カブ隊発隊。団委員紹介4、7、11、12、19、24団
第66号 昭52、1、15
吉沢氏の新年の言葉。第7回日本ジャンボリー構想。団委員紹介浜北1、2、3、4、細江1、引佐2団。
第67号 昭52、4、15
市川重雄氏、後藤守利氏かっこう章授賞。18団カブ隊結成。**浜北5団発団**。ボクラの隊長。
第68号 昭52、7、15
地区総会報告。県西部大会（弁天）。第1回西部母親バレーボール大会開催。18団10周年。6団20周年。引佐2団カブ隊結成。ボクラの隊長
第69号 昭52、10、15
地区大会（森林公園）、ボクラの隊長
第70号 昭53、1、20
第7回日本ジャンボリーは滝ケ原で開催される。ボクラの隊長、新年のあいさつ。
第71号 昭53、4、15
可美1団10周年。25団カブ隊結成。
第72号 昭53、7、25
地区総会報告。内田時世氏たか章、中島圭介氏、杉山友雄氏かっこう章授賞。**53年度より浜北地区が独立**。デンマザー紹介10、16、18、20、可美1。杉山氏にお礼。
第73号 昭53、10、25
第9回日本ジャンボリー特集号。53年8月4日～8日、デンマザー紹介1、6、14、15、21団
第74号 昭54、1、25
新年あいさつ。県西部大会（森林公園）、12団15周年、19団10周年、デンマザー紹介7、12、19、24、細江1、引佐2、25、4、11
第75号 昭54、4、25
10団20周年
第76号 昭54、7、25
地区総会報告、23団BS隊発隊。
第7　号 昭54、10、25
県大会（袋井）、1団25周年、20団10周年。
第78号 昭55、1、25
地区大会（佐鳴湖公園）、14団15周年。BSソフトボール大会
第79号 昭55、4、25
15団15周年。
第80号 昭55、7、25
地区総会報告。22団カブ隊発隊。16団15周年。
第81号 昭55、10、25
第4回ヒルモント派遣スカウト報告。
第82号 昭56、1、25
新春に想う。一日障害児スカウティング於浜松ロー学校（10月25日～26日）第3回写真コンテスト入選作品発表。
第83号 昭56、4、25
24団5周年。引佐2団10周年。
第84号 昭56、7、25
柳本氏地区協議会長に。地区総会報告。23団5周年。第1回南部母親バレーボール大会開催。

第85号　昭56、10、25
　地区大会（中田島）6団25周年。
第86号　昭57、1、25
　新年あいさつ。21団10周年
第87号　昭57、4、25
　これまで編集担当の山中将司さん御苦労さまでした。
第88号　昭57、7、25
　地区総会報告、第8回日本ジャンボリー紹介（南蔵王）。4団**牧野　績氏死去、本号より編集担当は奥沢達司氏に。**
第89号　昭57、10、25
　第8回日本ジャンボリー特集号。地区大会（中田島）。**進歩委員会より進歩かべかけ表を発表することとした。**世界スカウトの年日連60周年キャラバン隊浜松地区を。
第90号　昭58、1、25
　内田六郎賞飛び立つ。
第91号　昭58、4、25
　巻頭は大木俊夫氏、県連11回ＳＳ アドベンチャーキャンプの実施。**スカウト浜松89号が日連コンテストに入選。**
第92号　昭58、7、25
　竹村徳一氏のもっと歌を。県連総会報告。58年市制功労者に内田嘉一氏、柳本冬彦氏、城内 保氏が表彰される。デンマザー紹介始まる。**シニアーの頁新設号外**
　地区総会の特集号が今回は発行された。
第93号　昭58、10、25
　鈴木賢俊氏の韓国のスカウト事情。浜松地区大会（9月14日）が中田島で、1団30周年（9月11日）、**第15回世界ジャンボリー参加報告斉藤公誉君**
第94号　昭59、1、25
　今は亡き、高須岩夫さんの新年の辞。11団20周年（11月20日）、12団20周年、ＢＳ サッカー大会。
第95号　昭59、4、30
　平野　武氏の辞。地区総会の報告。14団よりスカウト紙芝居をどうぞ。
第96号
　高部良平氏のスカウト魂。県連総会。**名誉協議会長吉沢純道師逝去。**野外料理研修会。富士スカウト顕彰に参加して。
第97号　昭59、10、25
　斉藤元司氏のことば。**浜松地区結成30周年記念「キャンポリー'84」**（8月12日～8月15日）ヨット体験記。
第98号　昭60、1、25
　宮沢広士氏のことば。**地区結成30周年講演と放談のつどい**開催。14団20周年。
第99号
　石津　宏氏の20年。地区総会報告。15団20周年。22団10周年。23団10周年。**本号より編集担当が奥沢達司より石津　宏氏にバトンタッチ**

歴代地区役員氏名

年度	協議会長	副会長	委員長	副委員長	コミッショナー	副コミッショナー	事務長
29					、		
30	内田六郎		木全大孝		内田嘉一		児玉　巌
31	〃		〃		〃		
32	〃		〃		〃		
33	〃		〃		〃		
34	〃		〃		〃		
35	〃		〃		〃		
36	〃		内田六郎		〃		三輪悦爾
37	〃	杉浦英一 吉沢純道 仲山八百吉	〃	内田時世・宮沢広士 柳本冬彦	〃	鈴木順一・牧野　績 池田敏治・稲垣文雄	
38	〃	〃	〃	〃	鈴木順一	牧野　績・武田行弘 渡辺年啓・稲垣文雄	三輪悦爾
39	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
40	〃	吉沢純道 土谷為吉 高林貞一	〃	〃	渡辺年啓	牧野　績・稲垣文雄 渡辺年啓・桑島　亮	〃
41	〃	吉沢純道 土谷為吉 平野富士雄	内田時世	宮沢広士・河村　豊 柳本冬彦	〃	平野　武・鈴木秀彦 桑島　亮	〃
42	〃	〃	〃	宮沢広士・柳本冬彦 青葉貞雄・内田嘉一	〃	〃	〃
43	〃	〃	〃	〃	〃	平野　武・後藤守利 土井庸一	〃
44	〃	〃	〃	〃	〃	平野　武・後藤守利 土井庸一・石津　宏 原口芳彦・稲垣文雄	〃

会　計	財　政 委員長	組織拡張 委員長	指導者養 成委員長	進　歩 委員長	野営行事 委員長	健康安全 委員長	県連役員	備　考
	近藤勝彦	鈴木三郎	吉沢純道	牧野八郎	早川与市 斉藤光夫	妹尾銈作		
	〃		鈴木三郎	〃	〃	〃	県副コミ 内田嘉一	
	〃	天野義雄	〃	大橋俊蔵	土谷為吉	〃	〃	
	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
	刑部正三	杉山友男	中嶋圭介	〃	市川重雄	柳本冬彦	〃	
	〃	〃	〃	〃	〃	長尾静夫	〃	
	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
	金森武夫	〃	〃	〃	〃	〃	〃	

年度	協議会長	副会長	委員長	副委員長	コミッショナー	副コミッショナー	事務長
昭和45	内田六郎	吉沢純道 土屋為吉 平野富士雄	内田時世	宮沢広士・柳本冬彦 青葉貞雄	三輪悦爾	平野　武・原口芳彦 石津　宏・後藤守利 外山吉保・稲垣文雄	渡辺年啓
46	〃	吉沢純道 平野富士雄	〃	宮沢広士・柳本冬彦 青葉貞雄・内田嘉一	〃	〃	〃
47	〃	〃	〃	宮沢広士・柳本冬彦 市川重雄・丹羽潤一	〃	原口芳彦・鈴木俊輔 井ノ口泰三・大須賀進 杉山正禎・外山吉保 渡辺年啓・平野　武	牧野　績
48	〃	吉沢純道 平野富士雄 林良太郎	〃	〃	〃	名倉惣一郎・鈴木　実 井ノ口泰三・外山吉保 杉山正禎・八木本忠夫 平野　武	〃
49	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
50	吉沢純道	柳本冬彦 平野富士雄 林良太郎	〃	宮沢広士・市川重雄 杉山友男	〃	名倉惣一郎・鈴木俊輔 井ノ口泰三・外山吉保 神谷恭二・牧野　績 八木本忠夫・新井新一	柴田　薫
51	〃	〃	〃	宮沢広士・市川重雄 杉山友男・内田嘉一	牧野　績	玉木功一・永田遙児 井ノ口泰三・外山吉保 村上虎吉・後藤守利 八木本忠夫・新井信一	〃
52	〃	〃	〃	〃	〃	玉木功一・永田遙児 福世正志・外山吉保 村上虎吉・後藤守利 八木本忠夫・新井新一	〃
53	〃	柳本冬彦 青葉貞雄 林良太郎	〃	宮沢広士・市川重雄 内田嘉一	〃	玉木功一・永田遙児 福世正志・外山吉保 村上虎吉・後藤守利 名倉惣一郎・新井信一	〃
54	〃	〃	〃	〃	〃	玉木功一・永田遙児 山下二郎・福世正志 後藤守利・名倉惣一郎 村上虎吉	〃
55	〃	〃	〃	〃	永田遙児	玉木功一・原口芳彦 馬場俊郎・名倉惣一郎 福世正志・山下二郎 小粥慶二郎	〃
56	名誉会長 吉沢純道 会　長 柳本冬彦	〃	〃	〃	〃	玉木功一・原口芳彦 馬場俊郎・太田　進 福世正志・小粥慶二郎	〃
57	〃	〃	〃	〃	〃	玉木功一・柴田薫・原口芳彦・近藤孝明・渡辺興司・神谷恭二・太田進・小粥慶二郎・中島繁光	小野田将司
58	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
59	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
60	柳本冬彦	内田嘉一 市川重雄 林良太郎	〃	宮沢広士 鈴木宗太郎 山田昌彦	玉木功一	柴田　薫・川上文雄 近藤孝明・神谷恭二 滝川卓幸・太田　進 村松邦男	中島繁光

会　計	財　政 委員長	組織拡張 委員長	指導者養 成委員長	進　歩 委員長	野営行事 委員長	健康安全 委員長	県連役員	備　考
	金森武夫	杉山友男	中島圭介	大橋俊蔵	市川重雄	長尾静夫	県コミッショナー 内田嘉一	
	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
後藤守利	〃	〃	〃	〃	竜口和弘	〃	〃	
〃	〃	〃	〃	〃	竹村徳一	〃	〃	
生熊正治	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
〃	〃	山中将司	斉木誠二	中嶋圭介	〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	県副コミッショナー 三輪悦爾	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	平山木一	〃	
高部守弘	〃	〃	新谷　豊	山中洋一	〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	県コミッショナー 三輪悦爾	
〃	〃	奥澤達司	〃	〃	〃	〃	〃	
〃	〃	〃	野中豊治	〃	〃	〃	〃	
〃	杉本晴夫	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
小野田 将司	大木俊夫	石津　宏	〃	〃	〃	〃	〃	

スカウトのページ

ビーバー隊

「ぼくらは　ビーバー隊」

引佐２団

ぼくらビーバーは、すなおで、みんな、とてもやさしいです。おもしろくて、たのしいことばかりなので、はいってよかったです。小さい声でへんじをすると「やりなおし」といわれます。でもみんな、なかよくあそべるからビーバーのある日がたのしみです。

鈴木淳夫　名倉孝明　沼田　剛　飯田考充

ビーバーにはいったら、おやつのじかんがあったのでうれしかった。よう虫とりは、たのしくてむちゅうで土をほった。手がどろだらけになった。

山田 卓　杉浦新策　中村将義　飯田正充　内山 英

カブ隊

「カブスカウトになって」

浜松４団　大 村 正 広

ぼくがスカウトになっての思い出は、とてもたくさんあるけど、その中でも一番の思い出は、西伊豆の海洋訓練です。二泊三日で思いっきり海で泳げるので、ぼくは「スカウトになってよかったなあ」と思いました。

スカウトになって、このような楽しい事ばかりでなく苦しい事もありました。山登りをしたときは、もう、くたくたでいやになって「もうだめだ」と思いました。でも、登りきると、つかれなんか、どこかに飛んで行ってしまって、とてもさわやかな気分になります。そのほかの事では、緑の羽根の募金や、ユニセフ協同募金など人のためになる事をした後には「いいことをしたんだな」と思ってとてもいい気分になります。

それからぼくは、今年から組長になりました。今までは引っぱられて行く方だったが、今度はぼくが組を引っぱっていかなければいけません。組長が、しっかりしていないと組もちゃんとしていきません。だからぼくは、今年はカブスカウト最後の年でもあるから一番がんばろうと思います。このように、つらいことや楽しい事がいっぱいあるスカウト生活をぼくは、ボーイやシニアになってもずっと続けたい。

22団　大 石 浩 生

一番おもしろかったのは、しゅろの葉で「はえたたき」を作ったときです。今まではあまりナイフを使ったことがなかったけれどデンマザーさんにナイフの使い方を教えてもらいました。それから毎日家でえんぴつをけずっています。今では、父や母に「うまくなったね。」とほめてもらえます。その次よかったのは、ハイキングです。つかれたけれど山で、「しゅりけんおとし」をやったのと「ふきや」でまとあてをしたことです。

また、「なわばしご」にのぼったりして遊んだのがおもしろかったです。ぼくは、花や木をうえたり、虫や魚をとって遊ぶのが大すきなので、これからもカブスカウトでいろんなことをやるのが楽しみです。

浜松15団　田 形 真 一 朗

ぼくは、カブスカウトに入って三年目です。最初は、何をやるのか心配でしたが、ハイキングに行ったり、キャンプに行って夜みんなと話したりして楽しいことがいっぱいありました。

ぼくは、兄弟がいないのでみんなといっしょにいる時が、とっても楽しいです。

ぼくの自まんは、カブに入ってからまだ一度も休んでいないことです。サッカー部の試合や、子ども会の行事があったりして休みたい時が何度もありま

したが、「最後まで、やりぬく子になりなさい。」と、父や母にはげまされてがんばってきました。

今年は、組長になりました。

ぼくが「うさぎ」や「しか」の時にいろいろ教えてもらったので、今度は、ぼくが教えるばんです。

ロープ結びも教えてもらったので、もうかんたんにできます。みんなでたすけ合って、仲の良い組にしたいと思います。

カブスカウトに入ってよかったと思います。

浜松第19団　大石　　琢

ぼくは、カブスカウト「うさぎ」です。

隊長は、ぼくのお父さんです。

家にいる時は、お父さん、カブスカウトで活動している時は、隊長とよんでいるので気を使います。

しかし、隊集会のずっと前から、おとうさんは、何かしらないけれども、じゅんびをしているみたいです。

「手伝おうかどうしようか」とまよいます。

この前、隊集会でかじやをしました。

たいへんおもしろく、楽しかった。

カブスカウトになって、たいへんよかったと思います。

友だちは、いっぱいふえるし、舎えいや隊集会、組集会もたいへん楽しいです。

今、しかをめざして、がんばっています。

たいへん楽しいカブ隊です。

浜松20団　猪塚晋悟

ぼくが、入団した理由は二つあります。一つは、野外活動になれることです。大人になるまでに、どうしても野外活動をしなければならない時があると思ったからです。

たとえば、林間学校です。それに、もしもの時にそなえれるようにするためです。

二つめは、友だちを作ることです。カブのみんなとキャンプをしたり、くんれんをしているうちにだんだん友だちができるだろうと思ったからです。学校だけでなく、カブでも友だちを作ろうと思いました。

それで、入った以上はきちんとやろうと思いました。

時々ほかの行事とぶつかって、休む日があります。そんな日には、夜、カブブックをやろうと思っています。雨で中止になった時、前までスカウトをやっていたお兄さんに、教えてもらおうと思っています。でも、あるていどまできたら、自分でやっていこうと思います。

まだまだ、カブスカウトはリハーサルで、本番は、ボーイスカウトだと思っています。自分のめざすスカウトになりたいです。

浜松24団　山下大輔

ぼくは、一年前、お父さん、お母さんのすすめで、カブスカウトに入りました。それから、4組で、うさぎをやりました。今では、2組で、しかとして、やらなければいけない勉強をやっています。仲間のしかには、竹内君と、三橋君がいます。

この前、青少年の家で、1泊2日の舎営がありました。青少年の家では、6時が起しょうで、9時が消とうです。朝は、ラジオ体そうで始まります。次の日、ウォークラリーをやりました。ウォークラリーは、青少年の家から、四ツ池を通り、婦人会館、高台中学を通って、4㎞のコースを歩いてから、青少年の希望の森の中で、ポールの高さや、しゅりけん投げ、あん号かい読や、暗夜行路などのゲームをやりました。みんなで、力をあわせてがんばりましたが、4組中、けっかは、3等でした。うさぎの入隊式にちかいの言葉を言いました。それをまもって、しかの勉強をやり、くまになったら、くまの勉強をやります。

ぼくのめざしているスカウティングは、ボーイになっても、シニアになっても、ちかいの言葉を、やりとげる人になったら、どんなにすばらしいだろうと思います。それが、守れるように一生けん命まじめにやるようにがんばります。いつでも一生けん命やりたいです。

ボ　ー　イ　隊

「ボーイスカウトになって」

浜松１団　船　越　貴　寛

ぼくの家では家族みんながスカウト活動に励んでいる。兄も父も母もスカウトの道に進んで「日々の善行」に努力している。

カブスカウトでは、リーダーや父兄に世話になってきたが、ボーイになってからは班長中心の活動が大部分であるため、みんなそれぞれ責任が重くなった。

班の活動では、みんなが役割をもっているので、自分勝手な事はできない。だから、だれもが自分の作業を完全に果たさなければ良い活動はできない。特にキャンプやハイキングのときは役割の任務が大切であると思う。今年もいろいろとキャンプやハイキング、また、サイクリングの計画があると隊長から聞いているので大いに楽しみにしている。

ぼくは、ボーイスカウトとして良い伝統と名誉を守り、世の中のためになる社会人となるように頑張っていきたいと思っている。

それと、浜松１団がこれからもずっと続いて栄えるように全員が力を合わせて「ちかい」や「おきて」を実行するよう努力していこうと思う。

浜松７団　松　本　直　樹

僕がスカウトになって良かったと思っていることは、いくつかある。まず一番良かったと思うことは友達がたくさんできたことだ。隊の中はもちろん、地区のキャンプで知り合った人などもたくさんいるので最近では、地区の集まりなどがあるたびに会っては、自分達の学校や隊の事について情報を交換し合うようになり、とても楽しい。そんな事を考えると、友達っていいなあと感じる。だから、僕は、これからも友達を大切にしたいと思っている。

又、自分でも少しは「頑張り」と言うものが身についたと思う。それは、キャンプやハイキングに行くと、自分がいくら疲れても、みんなが頑張っていると思うと、弱音を吐く訳にもいかず、しかたがないと思いながらもやってきたことでもわかる。

浜松21団　鈴　木　隆　康

中学１年の１月６日、僕はついに待望の『**菊章**』を修得した。これは、ボーイスカウト最高の章では無いが僕にとっては最高の章だ。この『**菊章**』をとるには、大変な苦労があった。

思えば６年前、小学校３年の春、僕はカブスカウトに入隊した。「そなえよ　つねに」とか「いつも元気」などを教わり、それをモットーに頑張った。

「うさぎ」「しか」「くま」と上進していった。「くま」のとき組長をやった。その時、僕が初めて人の上にたった。今まで教えられる側だった僕が、教える側にまわった。僕は、みんなにしっかり指示を出し、また、自分もいろいろ教わりながら、カブスカウトを卒業した。そして、小学校６年、ボーイスカウトだ。

やはりボーイスカウトは、カブスカウトの時とは一段と差があった。キャンプなどの時も、カブの時のように父兄がいろいろな事をやるのではなく、僕達スカウトで全部やらなければいけない。でも、何故か、カブとは違った楽しさがあった。もちろん違う点もある。それは、特修章・技能章を得て進級である。僕はこの時「絶対に菊章を修得するぞ」と決心をした。

先ず、「三つの誓い」と「十二のおきて」をおぼえ初級章を修得した。初級は基礎的な事なので、案外簡単だった。それが、二級・一級といく毎に難しくなった。例えば、初級では言葉で言うだけでよかった事が、今度は活動で示したり表したりとか、いろいろな事の意味を調べたりしていかねばならない。それでも何とか一級、そして『菊章』迄いけた。その時には、左肩には「班長章」、右肩には「特修章」がついていた。次はよきリーダーを目ざそう。

シ　ニ　ア　隊

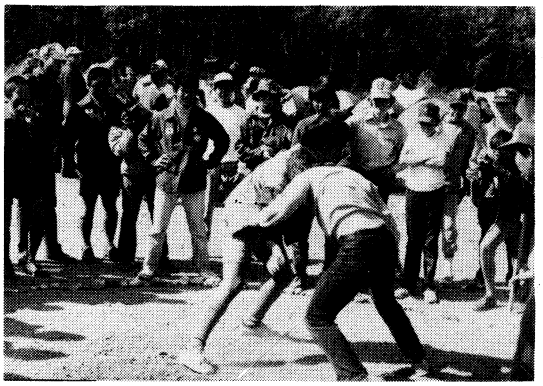
「僕達のめざすスカウティング」

浜松６団　平　野　浩　司

僕は今年でスカウト歴10年を迎えます。小学生のカブスカウトから始め、さまざまのスカウト活動を行ってきました。過去を振り返えると、ジャンボリーやアドベンチャー・キャンプ、地区大会等で知り合った数多い友人達と、彼等と交換したさまざまな品物は何物にも替え難い僕の青春の財産です。また学校の友人達とは一味違った夏を過ごしたり、さまざまな所へ旅行した思い出は痛烈に僕の心に焼きつけられています。

しかし、この「思い出」だけで終っては、いわゆるただのお遊びということになってしまいます。

それでは、どのようなスカウティングが真のスカウティングと呼べるのか僕の考えを述べましょう。元来「人の為になることがスカウティングである」と言われ僕もそう信じています。街頭募金を行い、公園の掃除や祭りの時の交通整理を行う、そんなことを10年間やってきたわけです。そういう他人のしない事で、それでいてしなければ非常に困ることをする、そういう所にスカウティングの価値が有るとは思います。でも、そんなささいなことを行えない人間が多いのは残念な事です。本当のスカウティングとは「人の為になる」と言うよりは「人の為になる人間を育てる」と言うことではないでしょうか。つまり、スカウトでやめてしまうのではなく指導者となってさまざまの人々にアプローチすることが僕達の目指すスカウティングなのではないでしょうか。



「シニアスカウトになって」

浜松18団　杉　山　達　矢

私は小学５年の終り頃、友人がボーイに入るというので二人で入りました。

隊集会で見習いスカウトとして上級スカウトからいろいろと教えてもらったり、隊長から訓練を受けたりして、なんとか初級に合格し制服を着る事ができました。ほとんどの同学年のスカウトはカブスカウトよりの上進者で、ボーイ隊に入隊したのは私と友人の２名だけでした。

ボーイ隊は、楽しかった。夏の隊野営で、かくし持っていたお菓子をテントの中でこっそり食べたりハイキングの途中で木かげでサボッたりした事、８NJ に参加して大雨でどろどろになったサイトで設営したりした事等、いろいろと思い出として残りました。

ＳＳ隊になって考えてみると、どうしてこんな事をしてスカウト活動をしているのだろう……と。確かに「誓い」と「おきて」の実施により自分がよりよき社会人になる為だと言う事は本に書いてあるが実感はない。スカウト活動は楽しい思い出だけでよいのだろうか。そんな事はないと思う。もっと違った何かがあると思う。楽しみながら、苦しみながら参加していれば、きっと何かが見つかるのだと私は思っています。

「宗教章を目指して」

引佐２団　清　水　靖　訓

今回、富士章への足掛かりとなる宗教章に挑戦する為、八王寺へと新幹線、在来線、バスを乗り継いで（緊張感に震えながら）行った。

３月27日、向こうはどんな所か、どんな人達が来るのか、食事は野菜ばかりか、内容はどれほど厳しいものなのか、いやその前に時間までに目的地に着けるのか等、期待するよりは不安で帰りたいような心境でそわそわしっぱなしであった。あいにくの雨模様も一層緊張感を増したが、目的地に着きある程度先が見通せると、突然、期待感でわくわくしたり、

自分達が最年長で隊付きをやらされることになった時、これは最高の行事になると思ったり、初日は身も心もかなり疲れたような気がする。

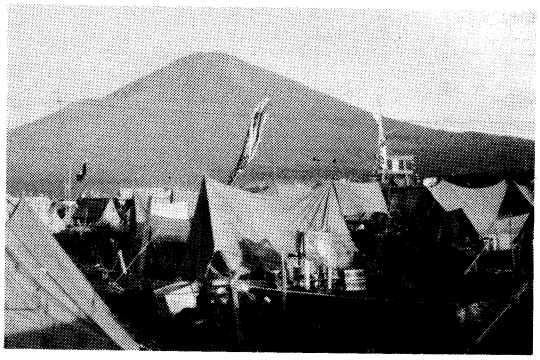
講義が終わった後、魚肉類の入った豪勢なおかずを前にして「生ぐさ坊主」という言葉を連想した。また、「食事は残さず、みんなが食べ終えると同時に自分も食べ終える。」という礼儀作法の注意等にどこか中途半端なものを感じた。

講義の内容は、仏教の中の一宗である曹洞宗について主に聞き、お経を読んだり、座禅の解説等も聞いた。とにかく、眠気におそわれながらも場所をわきまえ、必死になって受講したことは言うまでもないことである。仏教と言えば（特に禅宗である曹洞宗等は）自分に対して厳しく、修行によって仏に仕えるという観念があるから、自分達もその気にならなければいけないと思って講師の言うことを真剣に理解しようと心がけた。

2日目は朝5時30分起床で座禅を組み、昼に天寧寺という寺で再び座禅を組んだ。天寧寺では、40分間位いまじめにやらねばならず、警策という平たい棒で肩をたたかれるのに緊張し、眠気と戦い警策が過ぎて緊張感が解けてしまった後、隣りの人が「プッ、プーッ」と笑い出してしまった為、一緒につられてしまい、警策を受けはしまいかと顔をひきつらせ、歯をくいしばりがまんをした。

3日目は最終で、かなり名残り惜しく思いながら最後の講習を受けた。それまで知らなかった事を知り、初めて会った友達ができ、貸切りバスで駅まで送ってもらい、そこでみんなと別れた。

ジャンボリーも、ベンチャーも、そして今日の行事も、最高に楽しかったが、この講習を通してできた友達に、いつまた会えるのだろうかと思うのも、楽しみである。



シニアスカウトのロマン

浜松24団　篠田考一

ぼくもシニアスカウトになっていた。カブから始まったスカウト活動も、もう8年目になる。

ぼくはシニアスカウトになってよかったと思っている。それは計画を立てて、実行し、それがまあ無事に終った時だ。理由は2つある。1つは隊長がほとんど手を出さないこと、もう1つは生きて帰れるだろうか？　という緊張感がそこにはある。

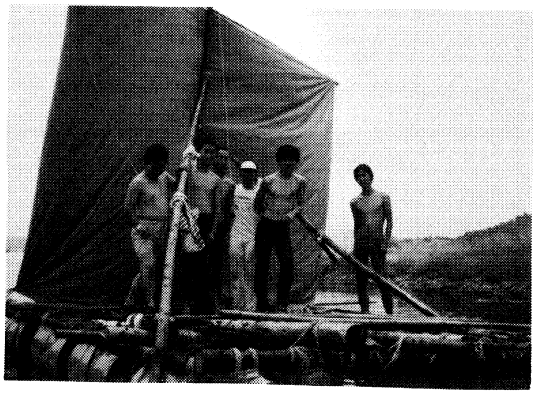
ボーイスカウト、カブスカウトでは味わえないことがたくさんあるからだ。

あと夢が、希望がたくさんある。

ヒルモントや富士スカウトなんかはすごく夢がある。それを現実のものにしたい。

けどまず隼になることだ。これがぼくの今年の課題。いっしょうけんめい努力しよう。

まあ8年目ということでけじめがつきつくいけど、しっかりシニアというスカウティングがした。



ボーイスカウトのちかい

私の　名誉にかけて　次の三条の実行をちかいます

1. 神(仏)と国とに誠を尽しおきてを守ります
1. いつも　他人の人々を援けます
1. 体を強くし　心をすこやかに徳を養います

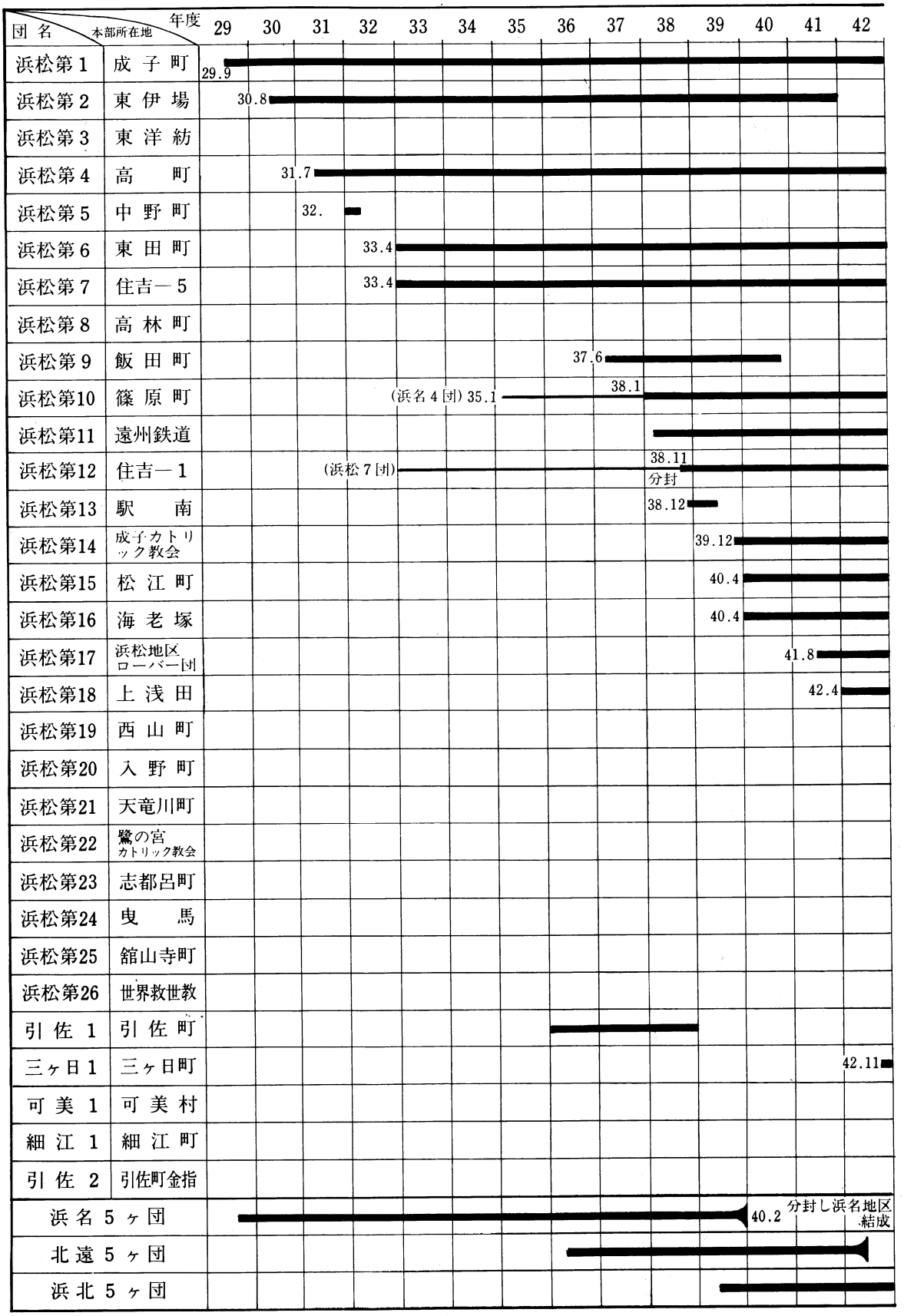
おきて

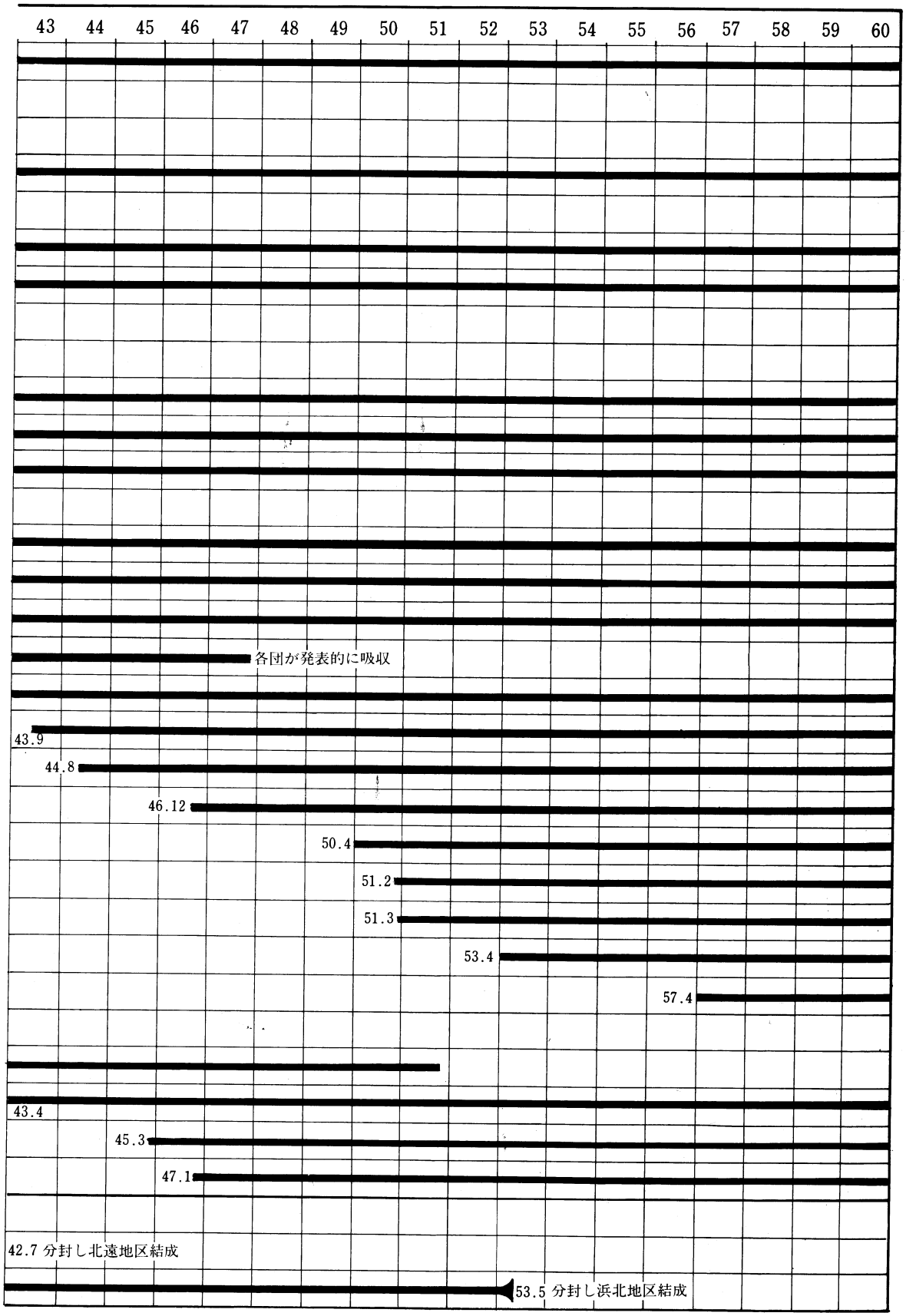
1. スカウトは　誠実である
2. スカウトは　忠節をつくす
3. スカウトは　人の力になる
4. スカウトは　友誼に厚い
5. スカウトは　礼儀正しい
6. スカウトは　親切である
7. スカウトは　従順である
8. スカウトは　快活である
9. スカウトは　質素である
10. スカウトは　勇敢である
11. スカウトは　純潔である
12. スカウトは　つつしみ深い

ボーイスカウトの標語　“そなえよつねに”

スカウトの主張　“日々の善行”

浜松地区所属団の推移


団名
本部所在地
年度
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
浜松第1 成子町
29.9
浜松第2 東伊場
30.8
浜松第3 東洋紡
浜松第4 高町
31.7
浜松第5 中野町
32.
浜松第6 東田町
33.4
浜松第7 住吉—5
33.4
浜松第8 高林町
浜松第9 飯田町
37.6
浜松第10 篠原町
(浜名4団) 35.1
38.1
浜松第11 遠州鉄道
浜松第12 住吉—1
(浜松7団)
38.11
分封
浜松第13 駅南
38.12
浜松第14 成子カトリック教会
39.12
浜松第15 松江町
40.4
浜松第16 海老塚
40.4
浜松第17 浜松地区ローバー団
41.8
浜松第18 上浅田
42.4
浜松第19 西山町
浜松第20 入野町
浜松第21 天竜川町
浜松第22 鷺の宮カトリック教会
浜松第23 志都呂町
浜松第24 曳馬
浜松第25 舘山寺町
浜松第26 世界救世教
引佐1 引佐町
三ヶ日1 三ヶ日町
42.11
可美1 可美村
細江1 細江町
引佐2 引佐町金指
浜名5ヶ団
40.2
分封し浜名地区結成
北遠5ヶ団
浜北5ヶ団


43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
各団が発表的に吸収
43.9
44.8
46.12
50.4
51.2
51.3
53.4
57.4
43.4
45.3
47.1
42.7 分封し北遠地区結成
53.5 分封し浜北地区結成

弥栄　表彰受賞者氏名

地区表彰	昭和45年11月	浜松 7	牧野俊幸（ＳＳ）	火災事故に対し
	〃	浜松10	少年隊有志	友情章
	昭和49年10月27日	浜松11	年長隊３名（渥美利明・斉藤欽司・大石任利）	善行
	昭和51年９月26日	浜松20	斉藤宜宏（ＣＳ）	善　行
	昭和56年９月27日	浜松23	柴田健市（ＣＳ）	〃
	〃	〃	増井健二（ＣＳ）	〃
	昭和57年10月３日	浜松12	間渕匡人（ＣＳ）	〃
	〃	細江１	影山　守（ＢＳ）	〃
	昭和58年９月４日	浜松 7	伊達好計（ＢＳ）	〃
	〃	浜松12	鈴木克宗（ＣＳ）	〃
	昭和59年８月14日	浜松16	村山隆司（ＢＳ）	〃
地区感謝状	昭和38年10月６日	浜松１	長野玲司	善　行
	昭和42年11月５日	浜松10、16、18	各少年隊	新川清掃
県連表彰	昭和37年	浜松 7	加藤敏雄（ＳＳ副長）	善行章
	昭和37年	浜松 7	鈴木　登（ＳＳ）	善行章
	昭和38年	浜松１	長野玲司（ＳＳ）	〃
	昭和39年	浜松 7	松尾敬次（ＢＳ）	人命救助章
	昭和53年５月28日	浜松１	吉沢正幸（ＳＳ）	善行章
	昭和57年５月16日	浜松23	柴田健市（ＣＳ）	〃
	〃	〃	増井健二（ＣＳ）	〃
	昭和58年５月８日	浜松12	間渕匡人（ＣＳ）	〃
	〃	細江１	影山　守（ＢＳ）	〃
	昭和59年５月13日	浜松12	鈴木克宗（ＣＳ）	〃
	〃	浜松16	村山隆司（ＢＳ）	〃
	〃	浜松 7	伊達好計（ＢＳ）	〃
日連有功章				
郭公章	昭和37年５月	浜松１	木全大孝	
	昭和38年５月12日	〃	内田嘉一	
	昭和44年５月18日	浜松４	内田時世	
	昭和45年５月15日	浜松12	宮沢広士	
	昭和47年５月７日	〃	三輪悦爾	
	昭和48年５月27日	浜松４	牧野　績	
	昭和52年２月19日	浜松10	後藤守利	
	〃	浜松16	市川重雄	
	昭和53年５月20日	浜松12	中嶋圭介	
	〃	浜北１	杉山友男	
鷹　章	昭和47年５月７日	浜松１	内田嘉一	
	昭和53年５月20日	浜松４	内田時世	
	昭和58年５月８日	浜松12	三輪悦爾	
	〃	〃	宮澤廣士	

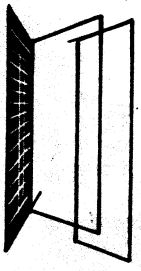
我が団の生い立ち

株式会社光部建設
代表取締役　光部四郎
事務所　浜松市和合町192—167
電話７１－０３８１番
自宅７２－５８２１番
作業場　浜松市都田町一色

企画から施行まで
店装のたにぐち
本　店　浜松市住吉５丁目18－２　TEL 71—2371

紙，文房具，事務用品
川島屋紙店
内山一男
TEL 05354－２－００６８

壁材料・セメント・タイル
神谷壁材店
神谷恭二
TEL 05354－２－０２１７

木造住宅から高層ビルまで……
ガラス・サッシのことなら何でも

㊎平野硝子㈱
（浜松６団　平野康司）
営業所：浜松市有玉北町1760の１
ＴＥＬ(0534)34—0015㈹
本　社：浜松市元浜町１４８
ＴＥＬ(0534)72—6543

総合建築材料
販売卸
松崎興商㈱
浜松６団　松崎正孝
浜松市飯田町４３５－６
ＴＥＬ(0534)63—6560㈹

いながき書店
浜松市志都呂町１１５３の１
☎ (47)０９３８　有線(2)５６０９

祝　スカウト浜松100号記念

ボーイスカウト浜松第10団

篠原育成会.団委員一同

木材の御用命は

(有)新井材木店

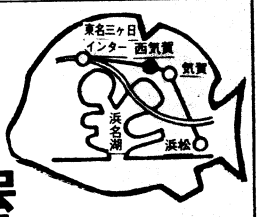
TEL25−7293

村上漁網店

気賀の網屋

村　上　虎　吉

引佐郡細江町西気賀10489 ☎〈05352〉2−0455



浜松12団副団委員長

斉藤成形外科医院

院長　斉　藤　　守

浜松市小豆餅1−34−30
TEL36−7031・7032

浜松12団ＢＳ隊副長

森田歯科医院

院長　森　田　一　彦

浜松市富塚小学校北
TEL　73−8241

人それぞれに
日々さまざまに
飲んで
喰べて
歌って
満足。

●名種宴会をお得な予算と豊かなボリュームで承ります。
●食事付会合にもご利用ください。

きかく事

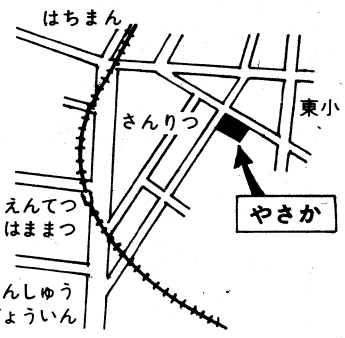
萩丘市営グランド坂上
☎73−8912

ミーティングルームに
お　食　事　に
大小御宴会に

やさか

弥栄

玉　木　功　一



団のあゆみ

浜松第１団

浜松第１団の履歴

	隊名・発隊日	発隊の場所	発隊時の役員リーダー
1.	ボーイ隊	成子町	育成会長・木全大孝
	S. 29・9・11	大厳寺	団委員長・内田嘉一
			ＢＳ隊長・左右田丈夫
			〃（副）・鈴木久雄
2.	シニア隊	成子町	
	S. 33	法林寺	育成会長・木全大孝
			団委員長・内田嘉一
			シニア隊長・高橋勝蔵
			〃（副）・所　勝美
3.	カブ隊	成子町	
	S. 45	法林寺	育成会長・飯島政次
			団委員長・吉沢正道
			カブ隊長・柴田　薫
4.	ローバー班	成子町	
	S. 48	法林寺	育成会長・飯島政次
			団委員長・吉沢正道
			ローバー隊長・渡辺年啓

あ　ゆ　み

昭和29年９月11日夜、成子町大厳寺の境内の広場で浜松１団の結成式が厳粛に挙行されました。

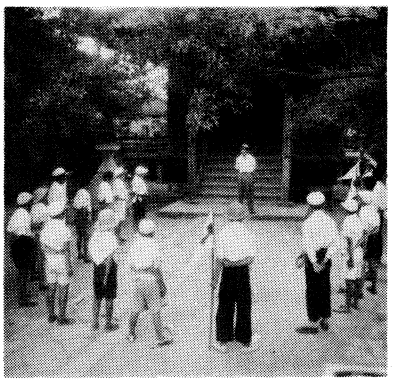
これよりさかのぼる７月28日（日曜日）大厳寺にて訓育が始められました。そのころは制服はなく平服にハンカチーフ、小学生は麦わらボーシ、中学生は学生帽で、今では見られないが帽子の上に白いカバーをつけていました。夏休み中連日集会が続けられました。

８月28日（日曜日）始めてのハイキングを内野から赤松方面へ行きました。その翌年の８月に引佐町の三岳山にて、名古屋１団と合同のキャンプを行いました。隊としてのテントはないので西伊場町の国鉄で借りたりしました。その内１張のテントは（私の班の）２枚の布をロープであみ合せて張ったのであります。その為２日目夜に雨が降った時などは雨がザーザーと、もるというのではなく水がおちてくるという表現が当たる程で、とてもテントの中にはいられないのでお宮の建物の中に避難しました。炊事道具などは今のコッヘルなどはないのでお釜で米を炊いたり、鍋でおかずを作ったりしました。隊長が当時の地方実習所を終了してきた時なので、一段と厳しい訓練でありました。あの三岳の石段を夜ネッカチーフで目かくしして１人１人おりていく、石段と石段の間隔が一定でないので下までおりることはとても怖くてなんとかして下までおりました。全員がおり終ると段はなん段あったかと隊長が問うのです。おちてはいけないと石段をつかみつかみ怖くてやっとおりた石段をなん段あったかと数える余裕などはありませんでした。全員のスカウトが数を数えていませんでしたので、隊長の小言をもらったりしました。

帰りには、自分のリュックを背負ってその上にはテント、両手にはナベ・カマを持って三岳より金指の駅まで帰りました。(行きも同じ）電車の真中にリュック・テント・ナベ・カマ等を積んで帰ったものです。元城駅でおりリュック等を持って成子町大厳寺まで帰るけれど全員がまっ黒い顔と服装で町の中を歩くので回りの人達がどういう少年達だという目で見ているように感じました。成子町大厳寺まで帰り、テント等をかたづけました。当時隊ルームなどはないので内田嘉一氏宅の裏の一部を倉庫がわりに使わせていただいてそこに野営具等を置いておきました。

30年前の苦労も今になると楽しい思い出となります。今後もこの道を歩き続けていきたい。

◀ＢＳ・ＧＳ合同の車中



◀班旗も出来ました　朝礼の一とき

浜松第４団

浜松第４団のあゆみ

浜松４団は本年７月７日の七夕に結成以来30周年を迎えます。

ここで諸先輩方々の足跡をたどってみたいと思います。

発団年月日　　昭和31年７月７日
　　場所　誠心高校校庭
ボーイ隊発隊　　昭和31年６月８日
シニア隊発隊　　昭和38年４月11日
カブ隊発隊　　昭和45年12月１日

発団当時の役員及びリーダーの方々

育成会長　内田六郎
団委員長　内田時世
団委員　杉浦正男
　　三ツ沢弘次
　　村越春久
　　中川　学
　　牧野八郎
　　白柳友治
ボーイ隊隊長　牧野　績

ネッカチーフ授与する牧野隊長

発団のエピソード

昭和30年の暮、袋井氏海蔵寺でのＢＳ指導者養成講習会を修了したばかりの、故牧野　績さんが、一面識もない、故内田六郎氏宅を訪れて、ボーイスカウト運動のすばらしさと、その教育の必要性を、熱い言葉で語りました。

その運動に共感を覚えた六郎先生は、教育活動の伴侶として、御子息である内田時世先生を、牧野氏に紹介したのが昭和31年の正月の事です。

その後、静岡より尾崎忠次氏を迎えて、第１回の説明会から、高町半僧坊本堂での第２回、３回と結成の準備が進められていきました。

そして昭和31年７月７日の、七夕の夜の結成式となりました。

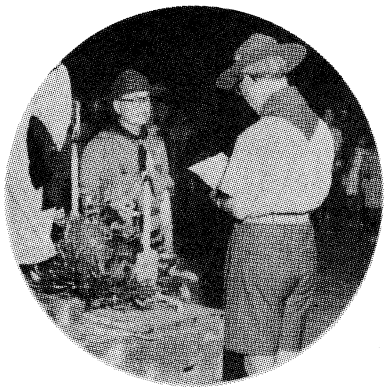
俳人としての、六郎先生の句日記『鶴を待つ』の中に当夜の句として

聖火燃えさかる時の
　星空に誓う声
七月七日ボーイスカウト浜松４団誕生

としるされております。

結成以来、訓練の場として、普済寺を使わせていただいており、感謝致しております。

ボーイスカウト４団のネッカチーフの色は、スカイブルーです。それは日本晴れの、空の紺碧に通ずるという意図を持っています。



結成時、尾崎忠次県コミッショナーより加盟証を受ける故内田六郎育成会長

◀結成式の記念写真（31・7・7）

◀キャンドルサービス

浜松第6団

団のあゆみ

昭和32年10月16日	育成会承認
昭和33年4月1日	少年隊結成八幡宮
昭和42年4月1日	10周年
昭和43年5月11日	年長隊結成東田町公会堂
昭和49年9月1日	年少隊結成八幡宮
昭和52年6月12日	20周年
昭和53年4月1日	ローバー隊結成東田町公会堂

結成時団役員

育成会長	近藤勝彦
副〃	西村進
財政委員	小野田祐
会計	富田大二
団委員長	土谷為吉
組織委員	平田太平
野営委員	杉浦光
行事委員	梨子田実
進歩委員	村松長治
健康安全	妹尾銈作

結成時リーダー

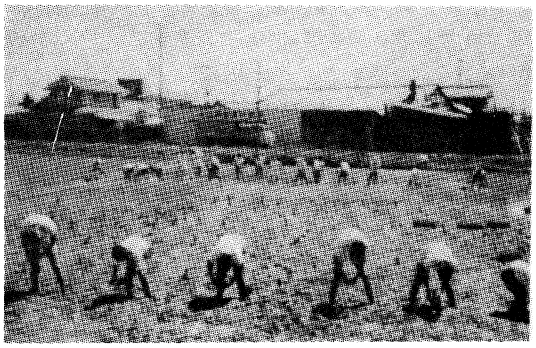
◎BS隊隊長	久米貞一
副長	鈴木和光
	児玉巖
副長補	四篠希一
◎SS隊隊長	鈴木和光
◎CS隊隊長	山崎仁義
副長	梶村幸子
〃	飯尾利江子
◎RS隊隊長	中島繁光

私達浜松6団がS32年10月に結成されて以来早いもので29年の月日が流れました。当時6ケ団だったのが今では22ケ団が活動するに至り本当にスカウト運動も盛大になったものだと思います。当時を想いおこすと、野外活動であるキャンプ地が遠くまで行かなくてもたくさんありました。今では、自衛隊近辺、瀬戸、富幕(奥山)、三岳等々宅地や道路になり大きな変りようです。日本ジャンボリーは第2回あいばの（滋賀県）以来全参加、特に3回御殿場、第4回日本原（岡山県）あたりまでは1つの団で全員参加したものでした。今では1ケ団5名とか割りあてでスカウト数も多くなったものだと思います。

浜松地区大会、県大会にも楽しい想い出があります。今では交通事情の問題でできませんが、当時の大会はほとんどが市中パレード。大国旗群、隊旗群を先頭にしての行進は浜松、静岡、清水、富士宮、磐田等々と紙吹雪の祝福を受け一歩一歩と歴史をきざんで来ました。

又、スカウトの募集について思いつく事、あの頃は歌の文句ではないがテレビも無い、サッカーも無い、塾も無いで皆ボーイスカウトに入団しました。今で言う受験戦争もなく子供達がのびのびと活動し、遊び、おおらかに過ごしていたものです。スカウト運動も良いリーダーあってこそ発展がありで、スカウト達の為に情熱を燃やし、つくしてくれる指導者を見つけ、またつくらなければいけません。御父兄の皆さんこの人はと思うリーダーを推せんして下さい。

最後に我が団の誇り、火の用心夜廻りについて一言。この行事は発団以来のことであり、スカウト皆の発案で行う様になり以来現在でも12月の寒い中がんばって続けております。今日、浜松地区ではスカウト数も多くなり小地区制度になり、より充実をめざしております。リーダー、団委員はもとより育成会員皆さんの御協力をお願い申し上げます。



浜松第７団

団のあゆみ

仮結成　昭和33年１月４日
審　査　昭和33年３月24日
結成式　昭和33年４月13日

初期登録	昭和33年４月１日	７団	No. 318
〃	〃	ＢＳ隊	No. 2614
〃	昭和35年４月１日	ＣＳ隊	No. 388
〃	昭和36年４月１日	ＳＳ隊	No. 244
〃	昭和54年４月１日	ＲＳ隊	No. 848

昭和33年１月浜松高台地区にボーイスカウトが結団されました。日本ボーイスカウト静岡連盟浜松第７団であります。昭和33年の１月に仮結式を行い、同年の４月になって、スカウト数24名、リーダー４名で結成され、住吉幼稚園のグランドに於て結団式を挙行致しました。育成会長に（現西小地区委員長宮沢広士氏、団委員長に（現Ｏ．Ｓ．Ｅ）三輪悦爾氏、ボーイ隊隊長に稲垣文雄氏、カブ隊長宮沢氏、シニヤ隊長三輪氏が兼務されました。

そもそも高台地区にボーイスカウトが誕生する事になった蔭には宮沢氏、三輪両氏の青少年育成に対する情熱と努力が大きな基盤になっております。

かねてより内田嘉一氏（現協議会副会長）から、再三にわたり、ボーイスカウト運動についての説明を受け、その設立を、すすめられていた三輪氏は、当時住吉幼稚園の園長さんだった宮沢氏に、ボーイ隊の設立を強く願望したのであります。

自転車をこいでの隊員集め、父兄への説明、火の気の無い寒い幼稚園の園長室で夜遅くまで話し合いと毎日毎夜の努力が重ねられ、昭和32年の暮れに、ようやく“メド”が立ち、軌道に乗り始めたのであります。育成会づくりのため説明会を住吉公民館で開き、住吉自治会にも協力を仰ぎ、組織づくりも順調に進み始め、そして審査もパスして昭和33年１月に仮結式を挙げたのであります。

当時を振り返り、宮沢、三輪の両氏は暗中模索の毎日だったと回想しておられました。

従いまして浜松第７団は宮沢、三輪の両氏が生みの親と言うことです。その後、昭和39年になって、宮沢、三輪の両氏は浜松地区ボーイスカウト運動の拡大を目指し、軌道に乗った第７団は沢田上夫育成会長、角田委員長、大橋副団委員長らに託し、新しく浜松第12団を結成されまして、現在に至っております。その当時第７団は隊員57名、団委員とリーダー21名と言う大世帯に発展していました。

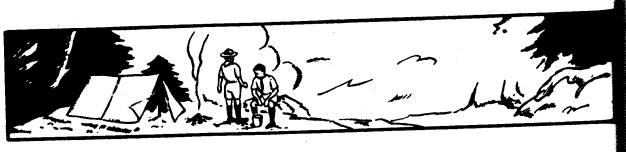
昭和41年には育成会長に古田孝輝氏、団委員長大橋俊蔵氏に変り、昭和52年には結団20周年記念式典を住吉青少年の家で行い、昭和62年には結団30周年を迎えることになります。昭和60年度はスカウト数80名団委員、リーダー43名と拡大を続けています。すでに故人となられた方々も沢山いらっしゃいますが、多くの人々の努力と精進に依り築かれた第７団であります。近年その年毎に行事も多彩化し着実に一歩一歩前進しております。

昭和34年には第10回世界ジャンボリー（フイリッピン）へ１名参加。同年第２回あいばの日本ジャンボリーに16名が参加を始め、36年沖縄２名、37年御殿場日本ジャンボリー39名という様にアメリカ、ノルエー、台湾と派遣される国も参加人員も多くなって参りました。

また、友団との交流も活発になり、昭和48年11月、東京306団（現在東京港12団）とのホーム・ステイ友交訪問を皮切るに、昭和48年、58年、59年と交歓会を続けており、今年８月には、同じ東京港12団のＢＳと浜松７団ＢＳの交歓キャンプを太田山野営場で行うことになっております。

東京港12団（育成会長神吉氏、団委員長弘田氏）は全国でも有数の優秀団で６月30日に結団15周年記念式典があり浜松７団からも団委員長、リーダー、カブスカウト９名が参列させていただきました
静岡との関係が深く、現県連盟長の尾崎先生、井野先生、板倉先生らが、東京港12団の設立に甚力された様です。15周年記念式典には上記の先生方に神宮司先生も招待されておりました。近隣友団のきずなをより深める様努力することは勿論ですが、将来交流ができる様福島３団、山梨、島田等の各団とも打診中であります。諸先輩らが築いた浜松第７団の伝統を守り、前進を目指し、団一体となり努力しています。

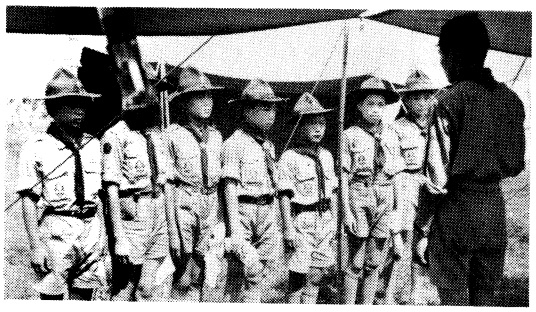
どうぞ浜松第７団をよろしくお願い致します。



浜松第10団

1. 団のあゆみ

昭和34年12月26日　団及び隊審査・登録申請
昭和35年１月４日　団及び隊加盟承認
（団名）浜名第４団　（団登録番号）第1410号
（所属隊登録番号）少年隊第2909号
昭和35年１月18日　結成式
少年隊発隊　　当時の篠原村立篠原中学校（現浜松市立篠原中学校）の体育館に浜松地区（現浜名地区を含む）の８団の参加を得て
スカウト　29名（小６・５年生）
指導者　　３名　隊長　天野光庸
副長　後藤守利　鈴木恭人
育成会長　柳本冬彦
団委員長　刑部正三　ほか12名
昭和38年１月４日　団名変更
新団名「浜松第10団」　旧篠原村が浜松市に吸収会併されたため。（市内９番目の発団）



第４回日本ジャンボリー（41年岡山県日本原）
「朝の点検を受けるスカウト達」

昭和38年３月29日　年長隊の隊審査・登録申請
昭和38年６月14日　所属加盟承認（ＳＳ）
（所属隊登録番号）年長隊第473号
昭和38年６月23日　年長隊発隊式　善養寺庭園
シニアースカウト　16名　隊長　後藤守利
昭和45年３月20日　少年第２隊の隊審査等
昭和45年５月２日　所属隊加盟承認（ＢＳ２）
（所属隊登録番号）少年隊第5233号
ボーイスカウト　44名（第１・２隊合計）
昭和47年３月12日　年少隊の隊審査・登録申請
昭和47年３月21日　所属隊加盟承認（ＣＳ）
（所属隊登録番号）年少隊第2321号
昭和47年５月14日　年少隊発隊式
浜松市立篠原小学校講堂
カブスカウト　27名
隊長　後藤守利　　副長　５名
デンマザー　４名　　デンチーフ　８名

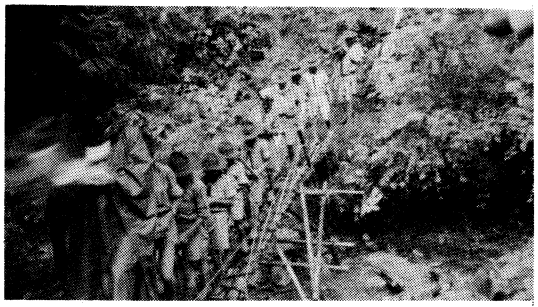
アジアジャンボリー（御殿場市）
「故吉沢純道地区名誉協議会長の朝のことば」

2. 発団の動機等

当団は、昭和34年初夏県教委主催の青少年健全育成会議が浜松市で開かれ、当時の篠原村教育長の鈴木進午氏（現浜松市議会議長）が出席して、ボーイスカウト活動の説明があり、深い感銘を受けた教育長の提唱により、現育成会長の柳本冬彦教育委員長や村当局のバックアップにより発団したものである。

特に発団にあたっては、当時の浜松地区コミッショナーの内田嘉一氏（現地区副協議会長）と隣地の現浜名地区コミッショー鈴木順一氏のご指導、さらに育成会長と団委員の方々のご尽力があり、その後２代目団委員長鈴木宗太郎氏や、指導者の山本紀道・小野田将司・山下二郎・岡本充雄・鈴木雅美・座間哲郎などの諸氏の、熱心な指導により順調に発展している。

当団は質実剛健を旨としているが、特に隊審査前には、ユニフォームや正帽もなく、Ｔシャツと半ズボンで訓練し、発団式にどうやら制服とヤンキーハット（現在は認められていない）が購入できた状況で、テントなどはアジアジャンボリー（37年）時でも、篠原中学校備品（米軍払下げ）を借用したものである。



地区合同野営（38年渋川川宇連）
「手作りの橋と渡り初め式」

浜松第11団

ボーイスカウト浜松11団は昭和38年6月30日浜松地区で2つ目の企業内スカウト団として当時社長であった故鈴木俊雄氏の命により、同じく当時総務部、現在社長である青葉貞雄氏を団委員長として遠州鉄道企業内スカウト団が、最近まで城北にありました遠鉄健保会館に於いてボーイ隊のみ2ケ隊の団として生ぶ声を上げた。この時の1隊隊長依田留也氏、2隊隊長鈴木秀彦氏、1隊副長土井庸一氏（現在21団副団委員長）と私。2隊副長松山直次氏、太田氏の計6名で発団に望みました。BSリーダーといっても37年10月に講習会をうけた3人と38年3月講習会を受けた3人という状態で何から手をつけて良いのか全々解りません。しかし、子供達は38年4月時点で募集もすみ、72名の人員が集まっていましたので、発団に向けて進むしかないと言う事で毎週金曜日の夜6人が集まり、どの様な訓練をするのか、どのようなプログラムを作るのか等を講習会で聞いた事、ノートした事をたよりに子供達の訓練を始めました。それも毎週土曜日の午後と日曜日の午前中の週2日の集会を行いました。この当時は、細江、竜洋、磐田　浜松等は勿論渋川、天竜等のスカウトも多く参加しておりました。今思うとスカウトも非常な苦労をしていた事と思います。しかし毎週2回の集会が実り隊審査も通りやっと発団にこぎつけました。

そして翌39年には従業員の強い要望により第3隊の結成を行いました。この3隊は隊長に青葉宏次氏副長に江間伸之氏、馬渕信義氏の3人がリーダーとなりました。

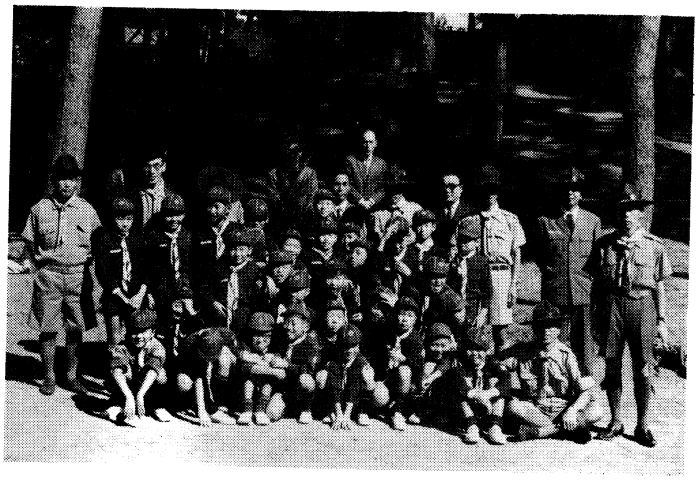
発足した時班集会を行う為リーダーは、全員手分けをして、細江、天竜、福田等の各営業所へ出むき班長に班集会のやり方、プログラムの進め方等を指導し隊集会に向けて訓練を行い、月1回の隊集会には、福田から、天竜から等20キロ以上離れた遠鉄健保会館に集まり、楽しい一時をすごし又1時間～2時間を掛けて帰宅する様な状態で隊集会を持っておりましたが時が立つにつれ、遠距離のスカウトから出席率が落ちてきました。現在は2隊で40名のBS隊が活動しております。

昭和45年4月土井庸一氏（現21団副団委員長）を隊長とし念願のシニアー班を結成7名の班員でシニアー活動を開始しました。この時の班員の中に現在11団BS隊の隊長で活躍している舘正己君がおりました。翌46年青葉宏次隊長のもと15名の隊員によりシニアー隊を結成し隊審査も通りシニアー隊として活動を開始しました。その後一時的に隊員の減少、出席者の減少等で隊の存在が危うい時期もありましたが、鈴木俊輔隊長等による努力により現在では隊員12名常時出席率80％以上の高率で隊活動を行っております。

昭和51年7月9日待ちに待ったカブスカウト隊発隊です。この6月カブの講習会を受けたばかり古橋照久を隊長に6月一ぱい毎日曜日を訓練に当隊審の後、前記の7月9日発隊しカブスカウト活を始めました。最初18名だった隊員も、翌52年に19名、54年には38名の隊員をかかえ活発な活動をっておりましたが、古橋隊長が人事異動により転となった為一時活動が不活となっておりました。をついだ富田隊長の熱意と努力により56年度よりより活発なカブスカウト活動を行っております。

この様にして、カブ隊、ボーイ隊、シニアー隊そして60年にはローバー班の登録も出来、浜松11は遠州鉄道の企業内スカウト団として今後も益々展して行くものと思います。

浜松第12団



発　　隊　　式

浜松12団は以前住吉幼稚園のグランドであった松の大木が生い茂った校庭の一隅で昭和38年11月３日文化の日に発団式を挙行した。それ以来22年が経過した。それより５年前我々は７団を創設していたのでその年数を加えると27年になる。今日７団も12団も共に力強い団として成長していることは喜びにたえない。７団から12団が独立したのは人脈関係の経緯が有ったが現県コミの三輪さん、元ＢＳ隊長の故稲垣さん達が中心になり私（宮沢）が団委員長になって高台地域の青少年達の育成に微力を尽そうと考えて始めた訳で今になってみるとこの地域には２ヶ団や３ヶ団あって当然なのだからあの時分離して新団を創設した事は大変喜ばしいことであった。

昭和43年の４月カブ隊に鼓隊を導入した。節度のある行動を確立しダラダラしない態度を養うことがそのねらいであった。これももう17年間も続いている。ヤマハ音楽祭に出演したり浜松まつりのパレードに参加したり地区大会の開会式や多くの団の結成式や○○周年の式典、つま恋の運動会、グランドホテルや体育館のフェステバル等々に出演した。各方面から出演の依頼を受け時には重荷になったこともあったが多勢の人の前に出て胸を張って演奏した経験は１人１人の少年の心のカメラに焼ついて大きな自信になっていった事は確かである。目前に迫って来る重圧に耐えて親も子もよく頑張ったものだと今しみじみ思い出している。昭和48年に創設者の１人であった稲垣隊長が急逝された事は惜しみても余りある痛恨事であった。52年６月には我が団の母親チームがバレーボール大会で優勝した。毎年11月３日には何周年記念式典を欠さず行って来た。これは団を挙げてのお祭りであり最大の懇親の機会でもあると共に団財政に対する資金獲得のチャンスでもある。又夏の活動のシーズンに一区切りつけ冬えの準備の始まりでもあり団全員がそんな気持の切換えが出来る点でも重要な行事の一つなっている。

我が団は県外の多くの団とおつき合いをする機会が多かった。富山県高岡とのスキー交歓は背戸田団委員長（現県連理事長）と私とは特に懇意であったので度々交歓会が出来た。45年の万博見学は京都15団に家庭分宿、愛知県半田２団と交流野営をしたり長野県茅野１団、飯田１団と冬季オリンピック大会を白樺湖で開催した。58年５月５日には三重県鈴鹿１団と正式に姉妹提携の調印式を行い毎年往復して友情を深めあっている。55年の12月にはプレハブではあるが団のスカウトハウスが出来て各種の会合は全てこの建物で行われ、その内装や備品は団員の寄贈されたものばかりである。こうして発展を続け成長して来たけれども最近の世相の移り変わりか少しスカウトの人数も減少気味である。60年にはビーバー隊を発足させた。今のところ11名であるが気力あふれたスカウトにして行きたいと考えている。22年間に海外に派遣されたスカウトも多い。39年７月宮沢ＣＳ隊長はスコットランド国際ジャンボレットに団長として参加して以来、宮沢総介（米国）、大澄茂雄（韓国）、金森啓二（ニュージランド）、三輪悦爾（フイリッピン）、竹田善次郎（オーストラリヤ）、伊藤康隆、三輪文人、川端秀之（フイリッピン）、大村直樹（英国、スペイン）等が海外に渡って勉強した。大村直樹、袴田康行の両君は富士スカウトになったことは喜びにたえない。

間渕匡人、鈴木克宗の両名は拾ったお金を市に寄附して善行表彰を受けた。宮澤廣士、三輪悦爾の両名は各々郭公章、鷹章を受け中嶋圭介は郭公章を受けている。発足当時の団役員、リーダーは下記の通りである。

育成会長	加藤房之助	団委員	高木幹雄
団委員長	中島圭介	〃	青木　実
副団委員長	伊沢　清	〃	巾　栄蔵
〃	鈴木四郎	〃	藤見春雄
ボーイ隊隊長	稲垣文雄	〃	野中賢三
〃　副隊長	三輪悦爾	〃	豊田周吉
カブ隊隊長	宮澤廣士	〃	後藤澄弘
〃 副隊長	大杉義孝	〃	河合忠雄
〃 副隊長	鈴木正次		

浜松第14団

結成20周年に思う

浜松第14団は昨年暮に満20周年を迎えました。

昭和39年12月25日。クリスマスの佳き日を選び、14名のスカウトを対象としたボーイ隊として誕生し、山田　修隊長、渥美輝男副長、育成会長に横山寅彦、副会長に長尾静夫の各氏、団委員長にクレメント・フォンテノー神父、団委員には富永保二、斉藤房太郎、奥澤達司、川島順三、小出庄二の諸氏で生声を挙げました。

その後　昭和44年２月　シニアー隊
　　昭和49年７月　カブ隊
　　昭和60年４月　ローバー隊
　　昭和60年４月　ビーバー隊

と各々発隊し、完全団の形態をとるまでに成長しました。

スカウト活動を通じて「創造主である神と、隣人に対する務めを果たすことのできる人間を育てる」ことを指針として私達はスカウティングに励んでいます。

この間、団をこれまでに育てて下さった団委員、リーダー、そして育成会、父兄の皆様、そして関係者に深い感謝を捧げます。

我が団の紹介

ＢＳには、３つのちかいと12のおきてがあります。これはＢＳが入隊時に名誉にかけて実行を誓ったもので、これを完全に実行すればどれだけ世の人の為になり、又世の中が良くなることでしょう。口で唱えることはやさしいことですが、実行はなかなかむづかしいものです。そのちかいの第１に神と国とに誠を尽し、おきてを守りますという項目があります。神の存在を知らなければＢＳ活動は無意味です。何も知らない対象に誠を尽すことは出来ないからです。所で現状で各人がどの程度神を理解しているでしょうか。日本の学校では一部を除いて幼稚園から大学まで神のことを全然教えてくれません。終戦後日本は経済的には大国にまで育ちましたが、敗戦による精神的混乱から、親は親の、先生は先生の権威を失って、子供達に、神の意志に従って行くべき方向を明確に教え示すことが出来ない儘に40年がたち、今その報いとして、校内暴力など憂慮すべき状態になり、それが次第に深刻化していることは皆様ご承知の通りです。今こそ神を畏れ、自分自身で生き、世のために尽す成人に育てるために学校では教えてくれない教育を施すべきです。それにはＢＳ活動が最も必要且つ適切と思います。

浜松14団がその一翼を担って発展することを切に願い祈るものであります。（育成会長　長尾静夫）

浜松第15団

1. 発団年月日　　昭和40年4月4日
2. 発団式の場所　八幡宮の境内
3. 発団の動機

東小学校、校区内には東田町を中心に第6団が結成されていたが、東地区松江町を中心にして新町、馬込町、木戸町、板屋町の少年達に、戦後20年経過しようとしているが物質の豊さのみに心を奪われて精神面の教育に欠ける事多く此れを打破するには何をすればよいかと有志より相談あり、折しもボーイスカウト運動を拡めようとしていた内田嘉一県副コミ、三輪浜松地区委員よりスカウト運動の原点の説明を林　良太郎宅で聞かされて期せずして結成準備委員会が結成され林　良太郎、長沢三五郎、山中将司、平野　武の諸氏を中心に発団の準備になった。

4. 結成時の役員、リーダー

育成会長	林　良太郎
団委員長	長沢三五郎
カブスカウト隊長	水田　利夫
ボーイスカウト隊長	平野　　武

5. 発団其の後のエピソード

松江町林屋本店、林　良太郎氏が育成会長に就任され同社の敷地建物の一部の使用が15団の為に心よく許可され若手社員より数名リーダー教育の為に会社の仕事を中断させて参加させ創成期の15団にとっては物心両面の御援助を頂いた事から本年20周年を迎えた今日迄続いております事は当団にとって最大なる幸福と云わざるを得ません。

此の20年間に朝霧高原に於ける第13回世界ジャンボリー参加、S41、45、49、53、57年の日本ジャンボリー参加を振り返えると、リーダーを始め団委員育成会員のたゆまざる努力と協力なくしてスカウト教育は出来ないと日頃痛感している。

エピソードの数もさる事乍ら、苦しかった思い出も又脳裏に焼き付いており30周年に向かって如何にしてスカウト運動を実践するか、当団にかせられた使命の重大さを思いつつ歩み続けていく方針です。

浜松第15団履歴

昭和40年1月　八幡宮境内にて仮結成式
昭和40年4月　八幡宮境内にて結成式挙行
　育成会長林　良太郎　団委員長長沢三五郎
　カブ隊隊長水田利夫　ボーイ隊隊長平野　武
昭和41年4月　ボーイ隊第2隊発隊
昭和41年8月　第4回日本ジャンボリー参加

　ボーイ隊第2隊長杉本泰次
昭和42年3月　シニアスカウト隊発隊
　ボーイ隊第1隊長原田芳彦　シニア隊隊長平野武
昭和43年6月　ボーイスカウト隊鼓隊編成
昭和44年8月　世界ジャンボリー総決起大会参加
　カブ隊隊長原田富元　ボーイ隊第2隊長高山角太郎
昭和45年8月　第5回日本ジャンボリー参加
　団委員長山中将司
昭和46年2月　ローバースカウト隊発隊
　ローバー隊隊長平野　武
昭和47年11月　県連50周年記念スカウト県大会参加
　ボーイ隊第1隊隊長名倉惣一郎　第2隊隊長市川隆
昭和48年　　カブ隊隊長山下虎男
昭和49年8月　第6回日本ジャンボリー参加
昭和50年4月　八幡宮境内にて結成10周年記念行事
　ボーイ隊第2隊長馬場俊郎
昭和51年　　カブ隊隊長前田穂積
昭和52年　　ボーイ隊第1隊長馬場俊郎
　　ボーイ隊第2隊長村松国弘
　　シニア隊隊長名倉惣一郎
昭和53年8月　第7回日本ジャンボリー参加
昭和54年　　カブ隊隊長中村昌春
昭和55年4月　東部公民館にて結成15周年記念行事挙行　育成会長平野　武　ローバー隊隊長名倉惣一郎
昭和56年
昭和57年8月　第8回日本ジャンボリー参加
　ボーイスカウト第2隊長古谷儀明
昭和58年　　ボーイ隊第1隊長中村昌春
　　カブ隊隊長杉山邦司
昭和59年　　育成会長山中将司
　　団委員長平野　武
昭和60年4月　隊ルームにて結成20周年記念行事挙行

浜松第16団

Ⅰ　発団のこと

1. 発団　昭和40年7月25日
2. 会場　浜松市立南小学校々庭
3. 動機　「スカウト浜松」99号の巻頭言にくわしいが当地区の青少年の健全育成を願う人達が、現団委員長石津さんや、同育成会長市川さんを中心に、ＢＳ運動のすばらしさにほれこみ、当町の自治会関係者に相談、力強い賛成が得られたこと。

当時の団役員を紹介してみる。

育成会長	根地嶋保一	
副育成会長	岡田　三郎	
団委員長	市川　重雄	
団委員	小泉ちづ子	鈴木　主計
	増田　正則	松原　宣吉
	中村　新	新井　信一
ＢＳ１隊々長	石津　宏	
副長	山口　照司	

〈エピソード ①〉◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

初めての「ちかいの式」のときには、周囲の民家が協力して消燈してくれたので、真の闇夜の状態ででき、参列者全員深い感動に包まれたそうである。◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

Ⅱ　それ以後のことども

1. 発団から10周年まで

ＢＳ１隊の登録後、満一年を待たず41年４月１日に、ＢＳ２隊の登録がなされ、初代隊長には現副育成会長である、新谷　豊氏が任命された。この体制で43年度まで続いた。

その間、第４回日本ジャンボリー（岡山・日本原）に参加し散々なめに会ったり、42年４月１日には、ＣＳが誕生したりしている（ＣＳ初代隊長は、増田　正則）。44年４月１日に待望のＳＳ隊が発足（初代隊長は山口　照司氏）。その年の９月27日には、新川清掃奉仕を続けた労に市長表彰をうけた。

45年７月25日に、発団５周年記念式典が挙行された。これと同時に鼓隊が発足した。同年８月には、第５回日本ジャンボリー（静岡・朝霧）に参加。同年12月には、待ちこがれた隊ルームが団委員・リーダー達の協力により鹿嶋神社境内に建設された。46年８月には、第13回世界ジャンボリーが本県の朝霧高原にて開催され、当団も奉仕・見学に多数参加。世界の青少年と親交を持つことができた。48年５月[illegible]日、ＲＳ隊が発足、ここに完全団として[illegible]誕生したのである。ＲＳ初代隊長は[illegible]新氏。

完全団として生まれかわった[illegible]、49年８月の第６回日本ジャンボリー（北海道・千歳原）に参加。翌50年10月５日に、[illegible]周年を迎えた。

〈エピソード ②〉◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

◇新川清掃では、蚊の総攻撃[illegible]

◇地区の年中行事の中の[illegible]めたことである。

a　初日の出遥拝（41年[illegible]

b　スキー訓練（46年冬[illegible]　◆◆◆◆◆◆◆◆◆

2. 10周年より20周年まで

10周年記念式典は、雷を伴う豪雨の中、海老塚一丁目の鹿嶋神社々務所で挙行された。どしゃぶりの雨も昼近くには[illegible]好評の中で終了し一同ほっとした。

55年８月には、第７回[illegible]（御殿場）に参加。そして、[illegible]の、15周年記念を迎えることになる。

15周年記念式典は、[illegible]体育館で挙行された。多勢の[illegible]中厳粛な内にも爽快感のみなぎる式典が繰り拡げられていったことは、まだ記憶に新しい。

昭和57年８月には、第[illegible]ボリー（宮城県・蔵王）に参加[illegible]、昭和[illegible]年８月には豪雨の中での[illegible]された浜松キャンポリー84に参加した。

そして、記念すべき[illegible]、迎えようとしているのである。

式典は、次の時代を背負う[illegible]ためによりよい刺激になって[illegible]る。

Ⅲ　20周年記念式典についての予定

1. 日時　昭和60年[illegible]
2. 会場　市立南小学校体育館・鹿嶋神社境内

※　皆々様の[illegible]ております。

[illegible]　栄

（朗報を一つ　[illegible]キャンプに、堀内[illegible]）

浜松第18団

創刊100号に当って、御祝い申し上げます。

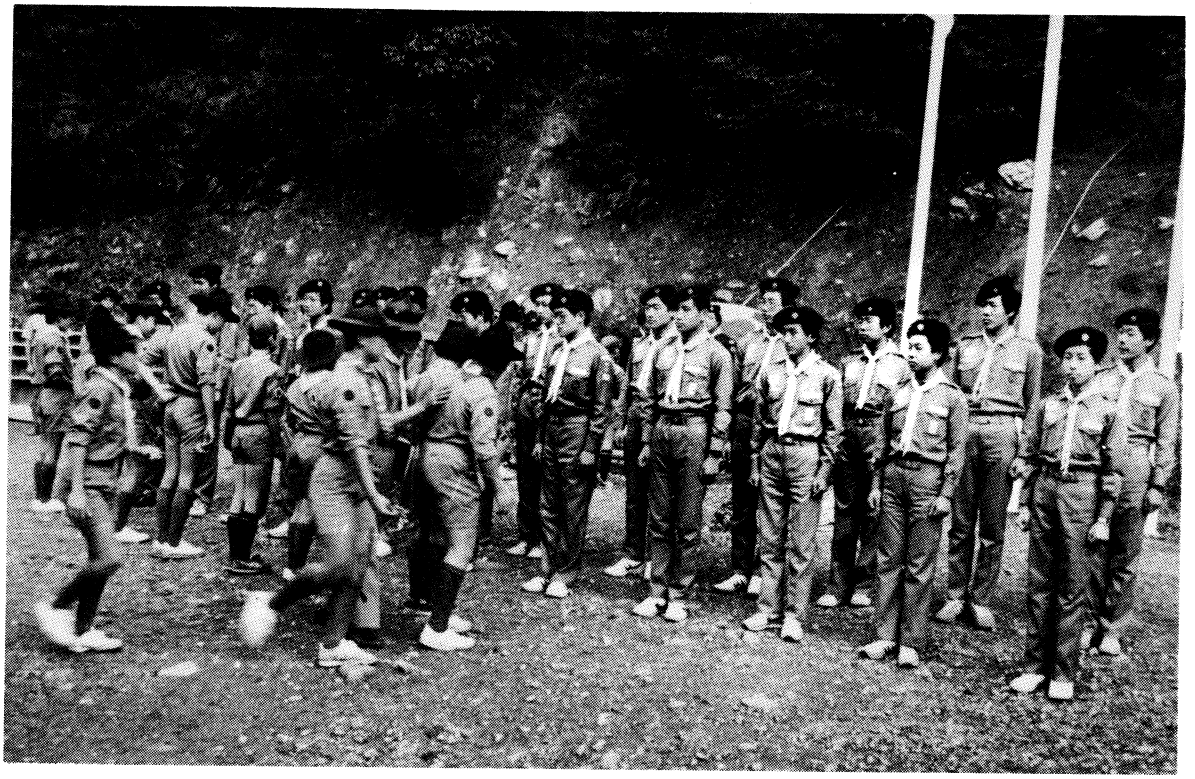
18団も産声を上げて、早18年となりました。思えば、昭和41年の秋、当時浅間小学校の、ＰＴＡ会長であった伊熊正治氏と、校外補導員の役員との間に子供達の校外活動に対し、町内の子供会活動は、盛んに行なわれていましたが、小学校卒業後は、これといった団体活動がなかったわけで、出来うれば、少年時代になにか子供達の為になる様な事はと、常々話し合いが行なわれた。

東町にあった派出所勤務の天野吾助さんが、ボーイスカウトの体験者であったことから話が進み、地区のスカウト関係者から何回かの説明会がなされた。三輪悦爾、内田嘉一両氏のアドバイスにより、町全体が、伊熊正治氏を中心に、ボーイスカウト浜松第18団の設立へと全力投球された。スカウトの募集も、浅間小学校区を対象に５年生が24名、６年生が１名、リーダーは、伊熊安雄氏を隊長に、私も副長を務める事に決まった。集会は町の中心に位置する、緑の木々に囲まれた、浅間神社境内で行なわれた。隊審査も無事に済み、昭和42年４月９日に、浅間小学校体育館で、友隊と来賓の方々が多数見守る中で結団式が行なわれました。野外活動を続ける中で、スカウトの中には、キャンプの献立でカレーの中に入っている肉が嫌いで泣き泣き食べたスカウトや、夜遅くまで勉強を熱心にやっているかと思えば、スカウトの進級勉強だったと聞かされた事が思い出される。

現在では18団も、韓国のソウル団と姉妹団となり、昭和60年８月には、50数名の団員とともに、ソウルでキャンポリーを実施する事が決まり、関係者一同大きな楽しみとなっている。今後もスカウト活動に真険に取組み、健全な少年達が生まれ育つことを期待し、スカウト浜松に弥栄を送る。

発団時の役員とリーダー

育成会長	植田　甚
団委員長	伊熊正治
副団委員長	松井　寛
財政委員	宇野三雄
指導者養成委員	〃
組織拡張委員	生倉義一　鈴木　易
健康安全委員	小杉安司
進歩委員	増田辰雄　山田孝治　土屋秋夫
野営行事委員	〃
ＢＳ隊長	伊熊安雄
〃　副長	天野吾助　福世正志



浜松第18団　冬季キャンポリー
（韓国ボーイスカウト　ソウル７団のスカウト、リーダー25名を迎えて）

浜松第19団

1. 結成までの経過

昭和43年、富塚幼稚園長(現)山口　洸氏が中心となり、当地区においてボーイスカウト新団結成の声が高まった。そのため昭和43年6月以降、浜松地区副委員長、宮沢広士氏の数回に亘る指導、助言を受けて準備を進め同年8月25日県連の審査を受けることができた。こうして昭和43年10月5日付にて加盟承認書をいただいた。

2. 地域及びその特色

当団は、はじめに富塚小学校区を中心とした地域で結成されたが、その後、徐々に地域が拡大し昭和47年には、神久呂、和地、庄内地区まで伸びた。しかし、昭和52年に庄内地区に新団が結成されたため、現在では富塚、神久呂、伊佐見、和地の4地区にわたっている。

3. 団の発展

昭和43年10月5日　団加盟登録（3183号）
　　年少隊登録（1556号）
昭和44年8月2日　少年隊登録（5040号）
昭和49年4月1日　シニヤ隊登録（1640号）
昭和51年4月15日　ボーイ2隊登録（6297号）
　　カブ2隊登録（3413号）
ボーイ2隊は隊員減少により昭和53年4月以降登録なし。
カブ2隊は隊員減少により昭和58年度より登録なし。
昭和60年4月7日　ビーバー隊発隊

4. 活動の状況

昭和43年9月1日　CS隊結成、隊長山口　洸、隊員27名（3組編成）
昭和44年8月3日　BS隊結成、隊長井田伸太郎　隊員12名（2班編成）
昭和44年8月10日　世界ジャンボリー推進静岡県総決起大会参加、BS井田隊長以下13名、CS山口隊長以下29名
昭和45年8月　第5回日本ジャンボリー参加（朝霧）、BSリーダー八木本忠夫、スカウト八木本良久、山本雅也、和田行蔵、井上浩志、和久田孝雄。CS隊8月8日、日本ジャンボリー見学（BSと合流、大会ハイライト大営火午後　時から9時まで見学）
昭和46年7月31日　ブラジルBSとの交歓会に参加
昭和46年8月　第13回世界ジャンボリー参加(朝霧)
　派遣隊員八木本良久、山本雅也
　奉仕隊員藤田輝彦、鈴木健司
昭和49年　第6回日本ジャンボリー参加(北海道)
　BSリーダー八木本忠夫、スカウト八木本英之、渥美貴久、柴田哲宏、[illegible]之、加茂浩享、小池一央
昭和53年　第7回日本ジャンボリー参加(御殿場)
　BSリーダー八木本忠夫、スカウト松島祐治、小粥和彦、小沢由浩、玉田[illegible]、斉藤吉央、古橋孝春、石原久永、幸田　稔
　シニアスカウト野中　誓、[illegible]、浜田秀樹、石原敏弘、小野雅[illegible]、[illegible]、徳田芳明
昭和57年　第8回日本ジャンボリー参加(富岳王)
　BSリーダー八木本忠夫、スカウト[illegible]玲司、石井克明、斉藤和彦、[illegible]、松尾行晃、松尾輝之、[illegible]、ベンチャースカウト玉田克巳
昭和60年4月　ビーバー隊発隊、隊長渡辺英行、隊員11名

5. 現在の団委員及び指導者（昭和60年4月現在）

育成会長　鈴木真一
副会長　鈴木　[illegible]
団委員長　野中豊治
副団委員長　渥美俊実
団委員　山下[illegible]、[illegible]、[illegible]、和久田　[illegible]、[illegible]、佐貫武臣、[illegible]、[illegible]
ビーバー隊長　渡辺英行
〃　副長　渡辺[illegible]、[illegible]
CS隊長　大石一[illegible]
〃　副長　小山[illegible]、野中[illegible]、[illegible]
BS隊長　佐藤光義
〃　副長　鈴木[illegible]、[illegible]
SS隊長　八木[illegible]

浜松第20団

その日、昭和44年８月24日

前日の雨も上がり、真夏の太陽がジリジリ照りつけるここ入野小学校へ、友隊のスカウト、リーダー、団委員の方々が続々集まって下さった。間もなく浜松20団の発団式が始まろうとしているのです。10数年を過ぎた今でもこの日の事で一番覚えているのが、石津隊長（現組織拡張委員長）の事です。間もなく（式典が始まろうという時、スカウトの話し声が収まらないので何か一言強い声でスカウトに注意を与えました。その一言でスカウトはシーンとなりました。スゴイ隊長だな。これが実感でした。現在の浜松地区でこのようなリーダーをあまり多くは知りません。残念なことです。

20団の発団には今は故人となられた前育成会長栩木　漸氏と10団々委員長鈴木宗太郎氏との関係からです。鈴木さんからのすすめで発団した20団から見れば鈴木さんは生みの親でしょうか。

初期登録の日付けは、44年７月27日となっており氏名は次のとおりです。

育成会長	栩　木　漸（故人）
団委員長	竹　村　徳　一
団委員	塩　谷　正　二
	横　原　康　雄
	河　合　　忍
	杉　山　守　夫
	古　田　栄　一
ボーイ隊々長	井ノ口泰三
ボーイスカウト	13名

以上のように実にささやかな団でした。

46年２月11日　　ＣＳ隊発隊
隊　長　河　合　　忍
副　長　松本みえ子

47年になりＣＳ隊２隊となり、カブスカウト48名、ボーイスカウト35名。団委員、リーダー15名でした。

発団以来年ごとにスカウト数が増え続け48年度にはＣＳ49名、ＢＳ51名となり共に２隊編成となりました。この年の３月１日に新規登録したシニア隊を含め総勢142名という大世帯となりました。

49年には５周年記念行事として３泊４日の信州旅行をし、スカウトや父兄に多くの想い出を残しました。

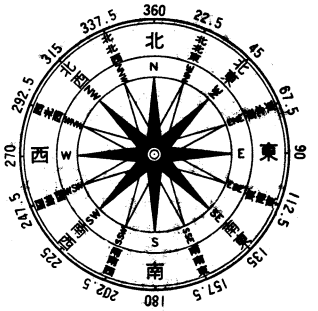
後列左より　小田木、平松、竹村(英)、紅林
前列左より　原田、塩谷、竹村(徳)、杉山

51年にローバー隊が発足し完全団となり、このような編成が55年まで続きました。この前年54年には10周年記念式典を想い出の場所である入野小学校の講堂で挙行し、この時にも多くの方々にご出席を戴きました。

56年頃からスカウト数が減少しはじめ、ＣＳ隊ＢＳ隊共に１隊となり、その後はスカウト数が急激に減少し、60年度はＣＳ10名、ＢＳ12名となり昔日の姿はありません。隊として登録できるギリギリまで落ちこんでしまいました。

募集しても集まらないのは私達の努力の足りないためなのか、スカウト活動よりもっと魅力のある事が多いのか、それとも私達団委員リーダーが人間的魅力に欠けるのか。考えさせられる事の多いこの頃です。

ＢＳ隊発隊　　昭和44年８月24日
ＣＳ隊発隊　　昭和46年２月11日
ＳＳ隊発隊　　昭和48年２月18日



浜松第21団

発団年月日　　昭和46年12月26日

発団式の場所　浜松市天竜川町（妙恩寺）

発団の動機

浜松東部は空白地帯になって居たので、浜松地区から天竜川町及び子供会へ団結成の働きかけがあったが実らなかった。

第13回世界ジャンボリーが、富士山麓朝霧高原にて開かれるのを機に、天竜川町防犯防火協力会に団結成の気運がもり上ったのであるが、その理由は防犯は子供達の教育から初めなければ駄目だと云う考えからである。

時の会長・玉木功一、副会長・竹山隆芳、会計・金原　武の諸氏であり、この３氏は現在ＳＳ隊長、ＣＳ副長、ＣＳ隊長として活躍中である。

尚、玉木功一氏はこれより11年前に、リーダー講習会を受講しているが、実際の経験がないので、地元に住み浜松11団のリーダーとして経験豊かな土井庸一氏（現在副団委員長）を招き、浜松地区及び友団の協力を得て結成準備に入ったのです。

発団時の役員・リーダー

役　員

育成会長	山沢英正
団委長	教野直雄
副団委長（財政）	玉木清治
副団委長（進歩）	高橋忠雄
団委員（野営行事）	竹山隆芳
団委員（組織拡張）	土井庸一太郎
団委員	竹山隆芳
団委員	金原　武

リーダー

ＢＳ隊長	玉木功一
ＢＳ副長	土井庸一

発隊式

ＢＳ隊	昭和46年12月
ＣＳ隊	昭和48年1月7日
ＳＳ隊	昭和51年4月
ＲＳ隊	昭和56年4月

浜松第22団

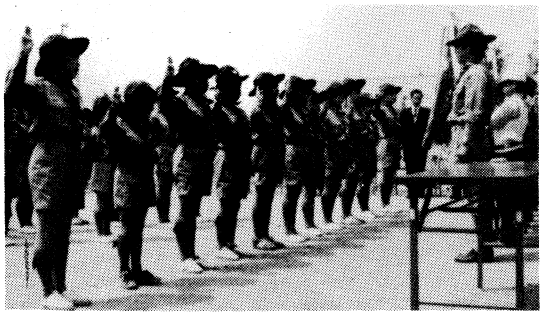
発団年月日　昭和50年４月
発団場所　鷲の宮カトリック教会
（浜松市大瀬町27－35）
発団式の場所　浜松海の星鷲の宮幼稚園グランド
発団の動機
浜松地区では、積志、笠井を中心とする市北部への組織の拡張に腐心していたところ、浜松14団の生みの親の内田嘉一地区協議会副会長の御尽力と、14団の団委員長を勤めたことのある鷲の宮教会委員長横山寅彦氏の肝いりで、とりあえずボーイ隊１隊で発団することになった。
発団当時の役員
育成会長　大木俊夫
団委員長　横山寅彦
団委員　横山登喜彦、高島春夫、松本昌二、大角隆章
エピソード
発団に際しては、他団においても似かよった情況の団があったと思われるが、22団発団当時は、団（隊）舎は無論、備品さえも皆無であったので、兄貴分の14団から野営用具一式を、また団委員の大角氏からはテントを寄贈して頂いて急場をしのいだ。

ボーイスカウト隊
発隊年月日　昭和50年４月
発隊場所　海の星鷲の宮幼稚園グランド
発隊時リーダー
ボーイ隊隊長　滝川卓幸
同　副長　鈴木宏昌、谷下沢邦夫

カブ隊発隊式

カブスカウト隊
発隊年月日　昭和55年４月29日
発隊式開催場所　海の星鷲の宮幼稚園ホール
発隊の動機
中学生の部活が盛んになり、ボーイ隊員に休隊（希望）者が増え、このままでは団が消滅する恐れもあるということで、玉木現地区コミショナー、小池前14団ＣＳ隊長などの指導で発隊に踏み切った。
発隊時リーダーおよび役員
育成会長　山崎波弘
団委員長　大木俊夫
団委員　石津良一、野田幸弘、石岡義久、彦坂英雄、鈴木　実、鈴木俊明、渡辺通丈
カブスカウト隊隊長　滝川敏子
同　副長　沢井　真、彦坂佳世
カブ隊発隊にまつわるエピソード
ボーイ隊員の減少で団の存在が風前の灯のようになってきた時、かって同じ経験をした浜松６団の中島氏（現事務長）から、カブ隊を作れば、父兄の参加も増え、団が活気づくとすすめられ、ともかく発隊に漕ぎつけたものの、カブ隊指導の経験者が一人もいないため、昭和50年の発団時と同様、またまた浜松14団の援助を仰いで、当時の14団ＣＳ隊長小池氏に数回隊集会に出て頂いて指導を受けた。滝川敏子氏を隊長に登録して活動を始めたが、指導者の経験がないので一人では負担が重すぎると言われ、団委員長（大木）と二人三脚で第一年目を何とか乗り切ったのであった。したがって、カブ隊第一回目のキャンプは指導の勉強も兼ねて、14団と合同で佐久島へ出かけた。

ビーバー隊
発隊年月日　昭和60年３月31日
発隊式場　海の星鷲の宮幼稚園グランド
発隊時リーダー
隊長　野田幸弘
副長　冨部裕子



昭和50年４月発団式

浜松第23団

発団以来10年を振り返って

当団も発団して10年を経過しました。当時当地の20団は入団希望者が多く、定員の都合上入団出来ない者が沢山居りました。しかしボーイスカウトへのあこがれは捨て切れず、雄踏町の浜名8団へ泣きつきました。浜名8団では暖かく迎え入れてくれ2年間カブスカウトを預かってくれました。その間有志が毎日発団に努力して来ましたが、苦難な毎日でした。これを見た地元の人々はこの努力に心を打たれ、殆んどの人が協力するようになりました。

最初はカブ隊だけで発団しましたが、成長するにつれてボーイ隊も作らなければならなくなりました。が、人数の関係で班編成でスタートし、研修のためリーダーと共に1年間20団に預っていただきました。

お陰様で現在ではシニア隊を有したしかも特色ある団にまで成長して参りました。オーバーナイトハイクをしたり、母の会が活躍したり……。

何か行事があれば団全員が出て和気あいあいで作業をし、特にバザーともなれば当団の力を発揮します。

ここまで育ったのは、発団前から友団の暖かいご援助があったからと改めて感謝の気持が沸き上って来ます。10団にも大変お世話になりました。これからもこの23団を暖かく見守って下さいますよう改めてお願い申し上げます。　（育成会副会長　稲垣祐輔）

団役員及びリーダー

	発団当時	5周年当時	
顧問		高部　正男	
相談役		斉藤　[illegible]	
育成会長	山本　睦次	山本　睦次	
〃 副会長		稲垣　裕輔	横原　恒雄
〃 副会長		山本　昌治	高部　光男
団委員長	高部　良平	高部　良平	
〃副委員長	山本　睦次	高部　[illegible]	
〃副委員長	後藤　和敏		
団委員	斉藤　良弘	中野　清二	永井　潔
〃	脇本　英治	松井　義[illegible]	村松　弘一
〃	古賀慎一郎	辻村　武	倉橋　勝美
〃	中野　清二	高部　時光	小堀景一郎
〃	外山　敏晴	土屋　[illegible]	平井　昌治
〃		鈴木　英司	服部　六郎
〃			岡田　実
CS隊長	平松　信也	内山　文男	
〃 副長	内山　文男	小野田信朗	
〃 副長	辻村　竹一		
BS隊長		辻村　竹一	
〃 副長		山内　健次	

浜松第24団

履歴一覧表

昭和51年3月8日
　浜松24団発団　　場所　八阪神社
　カブ隊発隊　　動機　地域発展の為
　ボーイ隊発隊
昭和52年8月1日　　発団時の役員、隊指導者
　シニアー班発足　　育成会長　間片　浩
昭和53年7月28日　　団委員長　間片　浩
　シニアー隊発隊　　副団委員長　田中孝一
昭和56年4月1日　　団委員　鈴木要三
　ローバー班発足　　島津嘉光
昭和57年4月1日　　稲木祐一
　ローバー隊発隊　　伊藤恭司
昭和60年3月17日　　カブ隊長　藪下尚男
　ビーバー試行隊発隊　　ボーイ隊長　伊藤勝司
昭和60年3月17日

団委員

結団10周年を迎えて

シニアー隊隊長・現団委員長
原口芳彦
（日本連盟リーダートレーナー）

昭和50年3月8日。浜松24団発団の記念すべき日であります。

想い起こせば、曳馬校区にボーイスカウトの団をつくろうと言う話が持ち上り、私にも発起人としての協力のお話しがあったのは、昭和49年の冬でありました。

当時、私は浜松15団のシニアー隊隊長として11年奉仕致しておりましたが、直ちに移籍も出来兼ねる事情でありましたので、陰の協力者として御奉仕をさせて頂きました。

浜松15団より正式に24団に移籍致しましたのは、昭和52年2月28日でありました。当時のボーイ隊隊長伊藤氏が辞意を表明されていた頃でありまして、年度末の事でもあり、3月31日迄はボーイ隊副長として登録をさせて頂きました。翌4月8、昭和52年度発足と同時にボーイ隊隊長として登録を致しました。

想い出せば、この52年度は大変思い出多き年度でありました。御記憶の方も多いと思いますが、東京三鷹第1団より塩野君が移籍して参りましたのも、この年の4月30日でありました。

然し、当団にとって最も意義深いのは、発団当時最年長であったスカウトがグリーンシニアーに上進した事であります。僅か6名の諸君でありましたので、当初はシニアー隊として登録し、私が隊長を兼務致しました。

翌53年4月第1期スカウトグリーンシニアーに上進し、8月には第2期スカウトがグリーンシニアーに上進し、遂に待望のシニアー隊が発団3年半にして結成されたのであります。当時、県下は勿論、浜松地区においても発団以来5年とか10年たってもまだシニアー隊が結成出来なかった団が数多くありましたので、これは大変目出度い事でありました。シニアー隊発隊式には、地区内は勿論、県連盟から尾崎連盟長、稲森理事長、大橋県コミッショナー等多数の御来賓をお招きし、かつ夜は袴田育成会長のお庭にてバーベキューによる大レセプションが行われた。

発隊に当り、私はスカウト達に次の様な御話しをしたことを、強烈に記憶しています。

『我等の待望のシニアー隊が今発隊した。日本中で一番新しいシニアー隊である。ここで隊長は君達に一つの提案をしたい。隊長も全力投球をするから君達も全力投球をしてほしい。そして日本一新しい浜松24団シニアー隊を日本一立派なシニアー隊にしよう。浜松一とか静岡県下で一番とか、そんな小さな望みは捨てよう。目指すのは日本一だ。』

お陰様でシニアースカウト諸君の努力は結実し、今迄に8名という多くの富士スカウトが育ちました。尊敬を込めて富士スカウト諸君の氏名を記します。宮分和浩、白尾浩久、辻徹太郎、多米一隆、袴田茂夫、戸塚昌宏、鈴木智之、細井治虫の諸君であります。そしてこのスカウト達はローバースカウトとなり、今日全員が隊指導者として本日以降の24団の命運をになっています。諸君、大いに頑張って下さい。そして君達が築いた24団の伝統を後輩に伝えていって下さい。心より御願い致します。物事には節目があります。浜松24団も10年という大きな節目を迎えて、乗り越えて行かねばならない問題を幾つか抱えています。然し、若い指導者達の協力によって育成会員全員の努力と調和により、何が何でも克服して参らねばなりません。皆様、お互いに頑張りましょう。

浜松第25団

履　　歴

ここに一冊のアルバムがある。昭和53年4月9日、浜松第25団結団式、於浜松市立北庄内小学校体育館とある。

此の日結団式と同時に13名の隊員をもってカブ隊も発足した。

太平洋戦争もまさに終焉を迎えようとした頃、大空で散華する事を覚悟し、誓い合って入所した航空機乗員養成所7期の同期生であった大橋光男君からボーイスカウト教育の素晴らしさを聞かされ、常々ここ庄内地区にも是非ボーイスカウトをと念願し、友人達と共に講習を受け準備をしてきました。たまたま、昭和50年6月、浜松舘山寺ライオンズクラブが結成され、初代会長新村秋賀氏は、青少年の健全育成の重要性を深く認識され、クラブの運営活動方針の一環として、ボーイスカウトの結成と発展の為協力支援する事を約束表明されました。

以後、発団の日まで大勢の皆様方、殊に地区委員長内田時世氏、副委員長宮沢広士氏をはじめ、第7団、第12団、第24団、細江1団、引佐2団の皆様方には格別の御指導、御援助に預り、やっと呱々の声をあげる事が出来ました。紙面をおかりし、更めて厚く御礼申し上げます。

発団時の団役員とリーダーは下記の通りでした。

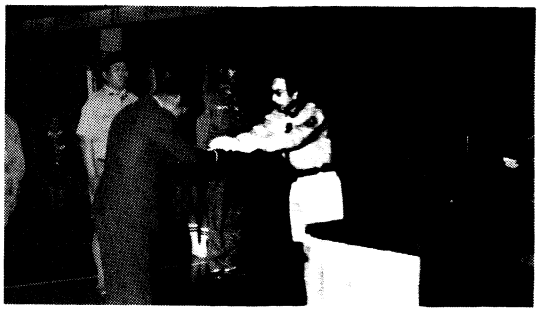
育成会長	新村秋賀
副 会 長	桔川一太
団委員長	内山達三
副団委員長	尾川安雄
	舘　孝道、疋田秀治、徳田　進
	桔川幸一、倉田　誠、油井幹宏
	新村日出夫
ＣＳ隊長	新村清孝
ＣＳ副長	徳田芳郎
ＣＳ副長	中村隆則

さあやるぞ、希望を胸に

ここで発隊当時の想い出を現ＣＳ隊長と前ＢＳ隊長に話して頂くこととします。

「私は発団に際し、25団ＣＳ隊の副長を仰せ付かった時は本当に当惑しました。講習は受けたものの慣れない用語、指導方法等、こちらも全くの一年生他団の指導を見学に行って勉強はしてみましたが、果たして自分は立派なリーダーになれるかどうか全く自信が持てませんでした。一日も早く立派なカブスカウトを育てたいと言う気持は人一倍持っていたつもりですが、なかなか思う様にいかず、とまどい悩んだものでした。13人で始まった隊員も翌年は38名に増え、西部ブロックの奥山ナンバーの頃は最高潮であった。あれから8年、たいした隊長にもなれず、真に恥かしい思いの昨今であります。」

（現ＣＳ隊長　徳田芳郎）



内田地区委員長より承認書を授与

ボーイ隊1期生のこと

「昭和55年に発足した浜松第25団ボーイ隊の第一期生は、中一の中村君、小六の倉田君、新村君、徳田君、疋田君、松尾君の6名であった。なりたての隊長であった私は、ほとんど毎週隊集会を開き、他のボーイ隊よりすぐれたスカウトにしようと考えていた。スカウトが、がんばったおかげで、まあ、とにかくこの子供達でも野営は出来るようなところにまで成長した頃下級生が入って来て、ワシ班、ツバメ班が出来たのであった。

昭和57年、8ＮＪの年である。2級スカウト達の中で疋田君と松尾君の2名が我団を代表して多くの仲間達と蔵王に行けることが出来た。この8ＮＪは台風が来たりで彼らにとっては大変なことであったと思うが、得がたい重要な経験となった。ともあれ、中学の部活の忙しい中、一期生は2級スカウトで終ってしまったけれどピカ一の2級スカウトであったと今でも自負しているものである。」

（元隊長　新村記）

浜松第26団

1. 発団年月日

昭和57年4月10日

2. 発団式の場所

浜松市曳馬町　曳馬公民館

3. 発団の動機

育成団体の母体である世界救世教でスカウト活動を積極的に推進しており、浜松布教所に所属していた人達の中に青少年育成に熱心な有志が集まり、発団の機運が高まり浜松地区コミッショナーからの説明助言をいただき発団できました。

4. 発団時の役員とリーダー

育成会

会長	生駒孔一
副会長	吉岡光雄
理事	高塚勝年
書記	伊藤明雄
会計	県　弘美
監事	笠原　保

リーダー

ＣＳ隊

隊長	今井秋文
副長	市野豊基
〃	新崎好明
副長補	木俣宏敏

団委員会

団委員長	小山定雄
副〃	古山昌彦
副〃	高木辰雄
団委員	渡辺啓二
〃	北将晃一
〃	増本　博
〃	県　弘美
〃	高木宏芳
〃	袴田静男
〃	生駒孔一

僕の目指すスカウティング

シニア班　宮田直大

小学校2年生の時である。当時、団委員をやっていた父に手をひかれ、組集会に参加したのは。

あれから約9年、早いものだ。今では、えらそうに、上班などと、大きな顔をしていすわっている。

さて、僕にとってスカウトとは何か。と考えてみる。すると僕はこんな答えがうかぶ。それは、よき信仰者であるということだ。幸いにして、僕の属する団は、世界救世教という、すばらしい宗教がある。

ＢＰもおっしゃるように、スカウトと宗教は、切っても切れないものだ。信仰というベースをもっていると、スカウティングを進めていくのが、半常に楽しくなる。それは、感謝の心が育ってくるからだ。

たとえ、つらくていやなことでも、神に感謝の心で、いどんでいけば、つらいことも、つらくなくなり、いやなことも、いやでなくなる。

そこで僕は浜松地区のスカウトに提案したい。神社でも、お寺でも、お地蔵さんでもいい。自分の心の中に、信仰を通じての、感謝の心を育てることを。

（カブスカウト）奉仕風景

引佐第２団

加盟承認

昭和46年８月28日　登録第3470号　引佐第２団
　　登録第5459号　ボーイスカウト隊

昭和47年１月16日　午前10時より、引佐町金指、実相寺に於て、ボーイスカウト　引佐第２団として発団式を行った。役員として、

育成会長	黒瀬説雄	団委員	巨嶋泰雄
団委員長	高須岩夫	ＢＳ隊長	神谷恭二
副委員長	加藤　寛	副長	内山恵介
団委員	内山一男	副長補	堀内　勲
団委員	内山隆次郎	副長補	杉浦　豊

が参加した。

加盟承認

昭和52年４月１日　登録第3746号　カブスカウト隊

昭和53年３月12日　午前10時より、引佐町、金指コミュニテーションセンターで、発隊式を行った。

加盟承認

昭和58年４月１日　登録第2926号　シニアスカウト隊

委　嘱

昭和60年３月31日　午前10時より、ビーバー隊の発隊式を引佐町井伊谷、隊ルームで行った。

委嘱状を翌４月１日付で受く。

以　上

ボーイスカウト、発団の目的

ボーイスカウト活動は、その組織を通じて、青少年が自らの健康を築き、社会に奉仕し得る能力と人生に有用な技能を体得し、且つ国際人として人道主義を抱握し、実践し得るよう教育することを目的とする。— とあるが、

金指地区に於ては、かって子供会の組織もなく、地域の子供に対する、活動がなされていなかった。為にこの機会に該当年令児童の、全員加入を促し、地域の少年の健全育成に質する目的として、当時当地出身の、現浜松地区副委員長の内田嘉一氏の強い勧めと、団委員長故高須岩夫氏の努力と、町教育委員会の強い要請もあり発団した。

カブスカウト、発隊の目的

ボーイスカウト発団後６年有余、カブスカウトの発隊に努力を重ねてきたが、スカウトが集まらなく苦労した。しかし役員を含む各位の目的達成に向けての熱意が実り発隊した。

当時の意見として、「ＢＳより、先にＣＳの発隊を先にすべきでなかったのでは……」があった

ビーバー隊、発隊の目的

カブスカウト年令に達しない小学校の生徒を対象に、遊びの中で自発性を育てる様に、スカウト活動をする。この様な目的であった。

—発団時の想い出、エピソード—

発団当時、ハイキング中にその土地の古老曰（いわ）く、「おメエラーは子供と遊んでいれるでエエノオー」と云われたこともあった。

細江地内から引佐町へのナイトハイキング中、尉ケ峯山頂近辺で突然、スカウト全員の行方不明にあい探索３時間有余、八方手を尽くした結果、三ケ日地内に於て発見した時は、喜びも一入（ひとしお）であった。

その後、ナイトハイキングは暫く見合せることにした。

発団まもない頃、浜松地区キャンポリーが渋川川（か）宇連（うれ）山中で、実施された折３泊４日の間、雨ばかりで体の中まで湿った想い出は、忘れられない。ボーイスカウトのキャンプは雨の中しか、やらないのかなあーとの思いをした。

過去、プログラムにもとづき、隊長は１泊２日の野営に必要な、野営具をリュ[illegible]にし、集合場所に行ったものの、スカウトの姿は１人も見えず淋しい思いをしましたが、今では１声をかけると、ほぼ全員が集合し、スカウトの方から、次の予定を尋ねられる程になった

—主参加行事

1974年　第６回日本ジャンボ[illegible]（北海道千歳原）リーダー１名、スカウト４名

1978年　第７回日本ジャンボ[illegible]（静岡県御殿場市滝ケ原）リーダー１名、スカウト４名

1980年８月　ヒルモント派遣団員の一員として、内山圭二君（当時高２）が参加

1982年　第８回日本ジャンボ[illegible]（宮城県白石市南蔵王山麓）リーダー２名、スカウト３名

1984年　第１回シニアスカウト大会（宮城県白石市南蔵王山麓）リーダー１名、スカウト３名

1985年８月　韓国親善派遣団の一員として、谷内康紀君（現中３）が参加決定

—昭和60年度７月現在、役員表—

育成会長	黒瀬説雄	ＳＳ隊長	神谷恭二
団委員長	内山一男	副長	内山恵介
団委員	斉藤秋二	ＢＳ隊長	佐藤　理
団委員	内山圭司	ＣＳ隊長	内山隆次郎
団委員	堀内昭彦	副長	谷川　聖
団委員	谷川昭枝	ビーバー隊長	中村とも枝
団委員	清水忠治	副長	巨嶋いと

（発団時から団委員長として活躍された高須岩夫さんが昭和60年３月死去されました。）

細江第１団

団の記録より

昭和44年９月20日　第１回発起人会
昭和44年10月10日　第２回発起人会
昭和44年11月　団役員、指導者を下記に内定

育成会長	沢木幸男
団委員長	伊藤和助
副団委員長	木俣重男
団委員	井上龍雄
〃	河西健
〃	岡田松男
〃	鴨藤多作
〃	大鹿節夫
ＢＳ隊長	杉山正禎
〃 副長	小林豊
〃副長補	白柳喜代一
〃 〃	影山吉張

昭和45年１月23～25日　８名指導者講習会受講
〃　３月１日　細江町立気賀小学校講堂にて早戸町長、教育委員長、教育長、町会議長、ライオンズクラブ役員他多数の来賓の御列席をいただき結成式を挙行。
ＢＳ25名１隊で発団。
式後、浜松第15団の鼓隊を中心とした友隊参加の、町内パレードに意気挙る。
昭和45年９月　ＢＳの新入隊員26名を迎えて第２隊発隊。
昭和48年５月　ＳＳ隊発隊。
昭和　年　月　ＲＳ隊発隊

現　団役員、リーダー氏名

育成会長	仲田直之
団委員長	村上虎吉
副団委員長	渥美信之
団委員	長田浩二
〃	杉浦奎弐
〃	夏目保
〃	内山浩二
〃	豊田一男
ＣＳ隊長	小桐竹次郎
〃 副長	松田武昭
〃 〃	小桐秀子
ＢＳ隊長	北沢和宏
〃 副長	中村勝彦
ＳＳ隊長	下山智
〃 副長	小林博
ＲＳ隊長	小林博
〃 副長	下山智

私と細江第１団

私が、この団の名簿に名を連ねたのは、昭和45年４月であります。

思えば遠い夢物語ですが、時折、思い出されるのは親しかった戦友の消息であります。

昭和10年、海軍に入団、軍艦陸奥に乗艦、中国方面の幾度かの作戦に従事し、最後は、葉山御用邸警備に派遣され、そこで終戦を迎えました。

当時、私たちの年代の者は１人身の気軽さで、勝手なことが出来た年代でしたので、それだけに戦死者も多く、横須賀に戻ることの出来た者は少なく、外地戦場の露と消えた者が多くありました。

入隊時の4,800人のうち、無事故郷の土を踏んだ者は７～800人ではないかと推測して居ります。

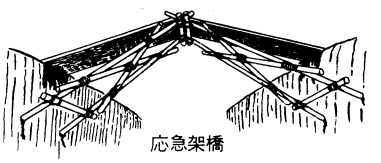
幸いにも、私は、終戦宣言何日もたたないで帰郷致しました。

その後、何年か経て、たまたま当町にもボーイスカウトの団が出来ることになり、人の勧めで、奉仕には余り自信はありませんでしたが、海軍に在籍中覚えた手旗やロープ結び（結索）には自信を持って居りましたので、次代の子供達の情操教育の一端を担えるなら、と決心して仲間入りをさせて貰いました。

人生わずか50年と言った昔でも、80年近くになりました今日でも、人間の友を思う心は変わらないと思います。

私の人生観は、今も変わりません。常に誠意を尽せば何時かは判る時が来ると信じています。

私の心の隅に消えることのない亡き戦友への餞にすべく、微力ながら勤めさせて頂いております。


応急架橋

可美第１団

訓育と奉仕を通じて、青少年が善良で有能な公民となり、更に社会の発展に寄与出来る人作りをと、可美村教育長の中村道男と、社会教育委員長の杢屋禎一が、昭和42年の夏も終りの頃、ボーイスカウト活動の研究をすすめていた。

また役場青年職員の中より、有志数名を指導者講習会へ送り、ボーイスカウト活動の原理と方法の修得に努めさせた。可美村青少年問題協議会の発足を機に、教育委員会を軸として、ボーイスカウト隊をつくろうと、11月より諸準備にとり組んでいた。

一段と寒さが身にしみた12月８日、可美村役場の村長室に浜松地区より、内田嘉一氏、山中将司氏をむかえ、山口助役、中村教育長、島　新作議員、杢屋社会教育委員長、ほか指導者が、スカウト運動についての熱のこもった話を意義深く聞き、受けた強い感銘を基盤に、ボーイスカウト隊結成への意欲がたかまっていった。

この盛り上りは12月12日の小学校ＰＴＡ理事会に内田氏、山中氏をむかえての説明会となり、結成についての賛同を得ると共に、更に青少年問題協議会の全面的な協力を得られることとなった。

昭和43年１月10日の新春早々、小学校の視聴覚教室に、父兄、指導者が集まりボーイスカウト隊結成の為のスライド映写等による研修をした。

２月20日には浜松地区より内田氏、山中氏、三輪氏を講師として、育成会、団委員会についての懇切丁寧な指導を受けた。育成会長太田　保、小島、中村両副会長が決まり、団委員長杢屋禎一のもと、隊長山村泰教、副長太田　進、佐藤陽一、杢屋昌英が任命され、再三の団会議により、綿密な計画が練られた。新隊員の募集につづいて、指導者は結成への第一歩として、隊員の訓練に日々を送った。

桜花爛漫の４月８日、諏訪神社境内に、浜松地区より渡辺氏、山中氏をむかえて予備審査、４月20日

小学校講堂に於ての県連の審査も、親切な指導と努力が実って、無事パスした。初期登録をすませ、月あかりのもと全員緊張のうちに、[illegible]の式に参加し感激をあらたにした。

昭和43年４月28日、朝から[illegible]、可美中学校体育館に於いて、地区副協議会長[illegible]先生をはじめ、南ロータリー新谷氏、地区[illegible]氏、渡辺氏、三輪氏、山中氏以下友隊20団[illegible]、村内役員40余名を迎え、厳粛のうちにも感動的な式はすすめられた。「雨降って地固る。[illegible]事でも力を協せて頑張ろう」という激励[illegible]を頂き一同まことに感激した。

浜松15団ボーイ隊の鼓隊[illegible]のスカウト、リーダーによる、小雨を[illegible]ハンドはまさに圧巻であった。道は[illegible]つめられ、その響きと姿に道行く村民[illegible]たものである。

更にボーイ第２隊が昭和[illegible]日に発隊し、世界ジャンボリー静岡総決[illegible]ボーイ第１隊、第２隊の60余名のスカ[illegible]・団委員が参加した。

第２隊長良知三夫、副長[illegible]、岡村敏治、岡部忠雄が青春の熱情を[illegible]スカウトの訓育に励んだ。続いて８月[illegible]誕生した。

隊長新村三千代、副長[illegible]、副長補水島より子、鈴木和代であ[illegible]の経緯である。

結成以来本年で[illegible]可美第１団も団委員長杢屋、島、[illegible]現在に至っている。

その間幾多の[illegible]ジャンボリー、世界ジャンボリー、[illegible]等に派遣され、巣立っていった。今日も[illegible]団委員長を中心に鈴木副団委員長の司会で全員出席の団会議が開かれ、明日に向って前進を続ける[illegible]である。

✝　✝　✝

浜松地区進歩かべかけ表

浜松地区進歩委員長　山　中　洋　一

浜松地区進歩かべかけ表は57年度から各団の進歩委員の御協力を得て、調査・作成をはじめ、4年目になりました。
昭和60年度の6月30日現在の各団の進歩・進級の調査結果が別表の通り集計が出来ましたので報告します。昭和59年現在の調査結果と比較対照出来るように、下欄に付け加えました。前年同期と比較してみますと、CSは71名減、BSは1名増、SSは15名減で合計85名減の1,305名です。
尚、9月30日現在の進歩状況の調査を計画しておりますので、各団の一層の御協力をお願いします。

昭和60年度　浜松地区スカウト進歩・進級一覧表

昭和60年6月30日現在
浜松地区進歩委員会　　は各隊の比率を示す。

区分	CS										BS															SS												総合計
	小2年	小3年		小4年			小5年			合計	小6年	中1年				中2年				中3年				合計	中3年	高1年		高2年			高3年				合計	
団号	りす	りす	うさぎ	りす	うさぎ	しか	りす	しか	くま		見習い	初	初	2	1	初	2	1	菊	初	2	1	菊		GS	GS	SS	GS	SS	隼	GS	SS	隼	富士		
浜松 1		8			10			5		23		16		7	1		5	4				6		39			5		2			1			8	70
4			6			15		2	19	42		7	3	4		3	5	1			4			27	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	69
6		3			6		1	5		15		4	6				11				1	2	1	25			2				1	2		5	45
7		8		1	7		2	13		31		10	15				6					8		38		6			3					9	78
10		1	8		5	6		3	8	31		10		13				10				1	3	37			5		4			4		13	81
11		9			3			11		23		8	8			6					11			33		5			5			2		12	68
12					8			7		15	6		9			9				1	3	2		30		4			3		4	1		12	57
14		8			4			13		25		5	8				3				1			17					4		1			5	47
15		6			8			14		28		10	6				7					1	5	29		5			3		4			12	69
16		4		1	6			7		18		4		6			3	1			1	2	1	18		5			2		2			9	45
18		7			11			15		33		10	8			10	1			4	4			37		6			7		6			19	89
19		7		1	10			11		29	1	10	6	2			17					4		40			4		5		2			11	80
20		4			1	2			3	10	1			5			4					2		12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	22
21		10			9			8		27		12	11			9				1	3		3	39		11			3		1			15	81
22		3			7			7		17		7	6				10					4		27			1		2					3	47
23		6			10			7		23		8	11			2	9				6			36		2			5		2			9	68
24		7			7			8		22		5	8			1	15				4			33		11			5		7			23	78
25		3		3	5			13		24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	24
26			2			6			9	17		5	11			3				2				21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	38
引佐 2					7			3		10	8		4			1	4					2		19		1						3		4	33
細江 1		7			8			10		25		7		7			8					6		28			3		5		4	1		13	66
可美 1		5			6			10		21		10	5				6			1	2	2		26			3							3	50
合計 ①		106	16	6	138	29	3	172	39	509	16	148	124	44	1	44	114	16	—	9	40	42	13	611	—	56	23	—	58	—	—	35	13	—	185	1,305
構成比②		21	3	1.2	27.1	5.7	0.6	33.8	7.6	39	2.6	20.3	20.3	7.2	0.2	7.2	18.7	2.6	—	1.5	6.5	6.9	2.1	46.8	—	30.3	12.4	—	31.4	—	—	18.9	7.0	—	14.2	100
59年 ①		169	8	16	196	3	4	179	5	580	—	126	126	65	—	22	82	25	—	10	34	61	2	610	—	58	24	1	73	5	—	32	7	—	200	1,390
6/30 ②		29.1	1.4	2.8	33.8	0.5	0.7	30.8	0.9	41.7	—	20.7	20.7	10.7	—	3.6	13.4	4.1	—	1.6	5.6	10	0.3	43.9	—	29	12	0.5	36.5	2.5	—	16	3.5	—	14.4	100

—地区のうごき—

4月2日(火)　地区コミ会議（弥栄）
7日(日)　浜松第15団20周年記念（浜松倉庫）
8日(月)　ヨットクラブ委員会（法林寺）
10日(水)　浜松まつり駐車場奉仕打合せ（法林寺）
10日(水)　ＣＳリーダー会（南部公民館）
11日(木)　班長訓練野営反省会（法林寺）
14日(日)　浜松第22団10周年記念（鷺の宮カトリック教会）
17日(水)　ＢＳ楽器研修会（法林寺）
18日(木)　地区総会（法林寺）
19日(金)　ＢＳリーダー会（法林寺）
21日(日)　ＤＭ研修会
21日(日)　ヨットクラブヨットメンテナンス（寸座マリーナ）
22日(月)　地区訓練チーム会議（法林寺）
23日(火)　指導者養成委員会（法林寺）
24日(水)　地区委員会（法林寺）
25日(木)　ＳＳリーダー会（青年婦人会館）
5月3日(金)〜5日(日)　浜松まつり駐車場奉仕
7日(火)　地区コミ会議（弥栄）
8日(水)　ＣＳリーダー会（南部公民館）
9日(木)　駐車場奉仕反省会（法林寺）
14日(火)　組織拡張委員会（法林寺）
15日(水)　団委員研修会スタッフ会議（法林寺）
16日(木)　ＢＳ楽器研修会（法林寺）
17日(金)　ＢＳリーダー会（法林寺）
19日(日)　ＤＣ研修会
20日(月)　組織拡張委員会（法林寺）
21日(火)　進歩委員会（法林寺）
22日(水)　地区委員会（法林寺）
23日(木)　ＳＳリーダー会（青年婦人会館）
27日(月)　太田山特別委員会（法林寺）
6月3日(月)　地区事務局会議（中島設計事務所）
4日(火)　地区コミ会議（法林寺）
6日(木)　スカウト浜松100号編集委員会（法林寺）
7日(金)　海外派遣（韓国）選考会（法林寺）
9日(日)　団委員研修会（南部公民館）
　　ＢＳリーダー研修会（史跡めぐり）
10日(月)　指導者講習会スタッフ会議（法林寺）
12日(水)　ＣＳリーダー会（南部公民館）
14日(金)　組織拡張委員会（法林寺）
16日(日)　ヨット講習会Ⅰ（寸座マリーナ）
19日(水)　ＢＳ楽器研修会（法林寺）
21日(金)　ＢＳリーダー会（法林寺）
23日(日)　指導者講習会（曳馬公民館）
25日(火)　野営行事委員会（法林寺）
26日(水)　地区委員会（法林寺）
27日(木)　ＳＳリーダー会（青年婦人会館）
29日(土)〜30日(日)　野営法研修会（太田山野営場）
7月2日(火)　地区コミ会議（弥栄）
7日(日)　浜松第4団30周年記念（普済寺）
10日(水)　ＣＳリーダー会（南部公民館）
14日(日)　ヨット講習会Ⅱ（寸座マリーナ）
15日(月)、20日(土)、22日(月)　夏の交通安全県民運動奉仕
17日(水)　ＢＳ楽器研修会
19日(金)　ＢＳリーダー会（法林寺）

～あとがき～

○「スカウト浜松」100号記念号を発行するに当たり各方面の多数の皆様から玉稿、資料の御提供を賜り有難く御礼申し上げます
○スカウト諸君からも沢山の寄稿をいただきましたが、紙面の都合で一部しか掲載出来なかったことをお詫びいたします。どの文面からも真剣にスカウト活動に取り組んでいる姿が目に見えるようで、うれしく思いました。
○広告掲載への御協力もありがとうございました。読者の皆さん、大いに広告提供者を御利用下さい。
○本号は「浜松地区30年の歴史の一端でも残そう」と言うことを含めて編集致しました。正しい歴史を作るため今後共資料の提供をお願い致します。
○初めて、創刊号から全部に目を通す機会に恵まれ、先人の築かれた地区の歴史の二頁二頁から、ずっしりとした重さを感じております。特に、地区の基礎造りから発展へと骨身を惜しまず御尽力下さった内田六郎、吉沢純道両氏をはじめ、今は亡き多くの先輩の関係記事を拝見し、胸の引き締まる思いが致しました。改めて御冥福をお祈り申し上げます。
○原稿調整等により発行が予定より大巾に遅れましたことをお詫び致します
○写真コンテスト作品募集中です。ふるって御応募下さい。　（Ｔ．Ｏ）

編　集　委　員

浜松地区委員長	内田時世
〃 コミッショナー	土木功一
〃 事務長	中島繁光
〃 組織拡張委員長	石津　宏
〃 〃 副委員長	村上虎吉
〃 〃 副委員長	鈴木俊輔
〃 〃 副委員長	奥澤達司
「スカウト浜松」事務局	黒柳昭夫

発　行　所　第100号
日本ボーイスカウト浜松地区事務所
〒430 浜松市海老塚2-9-16　☎52－2386
編集発行責任者　石津　宏
印刷所　㈱朝日堂印刷所
昭和60年9月30日　発行